

TAC 教材だけをしっかりとやれば合格できました。

K さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 2回目

.. 1

会計職に就きたい、そのための標石がU.S.CPA試験合格でした。

阿部 望 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 2

短期集中しましょう。

K.A さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 3

Expertise 確立領域のスクリーニングとして

玉木 祐一朗 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 4

自分を信じて前に進もう！

藤居 陽 さん FAR : 2回目、BEC : 2回目
REG : 1回目、AUD : 2回目

.. 5

毎日着実に実力を積み重ねていくこと

Y.M さん FAR : 2回目、BEC : 2回目
REG : 1回目、AUD : 3回目

.. 6

集中できる環境を自ら作り出しましょう！

玉井 隆秀 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 7

あきらめず勉強し続けることが大切！

R.M さん FAR : 1回目、BEC : 2回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 8

七転び八起き！最後は諦めないものが勝つ！

S.N さん FAR : 8回目、BEC : 12回目
REG : 4回目、AUD : 10回目

.. 9

粘り強い精神で練習を続きましょう！

KONAN LAURENT さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 10

TAC + Becker で合格

M.O さん FAR : 1回目、BEC : 2回目
REG : 2回目、AUD : 1回目

.. 11

現在の努力は将来への投資！

日高 正悟 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 2回目

.. 12

TAC METHOD は嘘をつかない！信じて短期合格！

大橋 暁 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 13

最後までやり通す、その強い意志が大切

T.Y さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 14

諦めないことが大切です。

小田 選太郎 さん FAR : 3回目、BEC : 7回目
REG : 3回目、AUD : 2回目

.. 15

USCPA License 取得のメリットは数知れないと思います！

小泉 秀樹 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 16

TAC と Becker だけで平均90点も可能！

呉 静 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 17

中高年受験生こそ一発合格の決意を持って！

T.S さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 18

しっかりと学習計画を立てることが合格への近道

T.M さん FAR : 2回目、BEC : 3回目
REG : 2回目、AUD : 3回目

.. 19

ライフイベントと勉強の両立がカギ、TAC と Becker で一発合格できます！

A.M さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 1回目

.. 20

「きっと合格できる」と思う気持ちが大切。

野中 俊 さん

.. 21

Big challenge that changed my life

岸野 陽子 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 1回目、AUD : 2回目

.. 22

Do or do not. There is no try.

T.Y さん FAR : 1回目、BEC : 1回目
REG : 2回目、AUD : 1回目

.. 24

TAC 教材だけをしっかりとやれば合格できました。



K さん

神戸大学 卒業
勤務先：会計事務所

2014年2月 USCPA試験合格（グアム州）

FAR：84点（2013年7月／1回目）、BEC：83点（2013年10月／1回目）

REG：88点（2014年1月／1回目）、AUD：77点（2014年2月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

大学卒業後大手SIer等でシステムエンジニアとして約9年働いていましたが、軽く始めた簿記の学習にはまり、税務会計の世界へ転身しました。転身後は、税理士資格取得と実務経験にほとんどの時間を投資しました。

これからの税務会計業界でより自分を高めるにはどうすればよいかを考えていた時期、USCPAの資格勉強は英語の勉強にもなりちょうどよいかと、こちらも比較的軽い気持ちではじめました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：税理士

英語知識：TOEIC®L&R TEST 665 (Listening355 Reading310)
→合格後720 (Listening335 Reading385)

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

税理士の簿記・財務諸表論をTACで合格していたので、教材に間違いはないと思っておりました。音声ダウンロードを非常に重視しました。（また、税理士割引があったこともよかったです。）

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

Q6参照

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

Q6参照

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

通学の教室講座でした。

最初の1年間は毎週TACに通学することを目標にし、体を慣らすことと、GUAM申請に必要なブラッドリー単位の取得に努めました。せっかく取得するなら（Inactiveでも）名刺にかけられる方がよいかなと思ひ、最終的に10科目以上のBradley単位を取得しました。（計20万円くらいかかったと思います）

振り返りますと、ブラッドリーの学習の中で、USCPAに必要な英語力が鍛えられました。

【FAR】

初めて合格した科目であり、もっとも時間をかけた科目です。ある程度の会計知識はありましたが、範囲が膨大なうえ、会計もありますので。

FAR1・2

・TAC問題集 と 紙Becker それぞれ2-3回転
・Beckerオンライン演習ソフトのうち、Simulationは全問きちんとやりました（問題数を洗い出し、それぞれの論点をExcelにまとめました）

FAR3(公会計)

・内田先生の直対まとめ&厳選問題集

自分の勉強方法で合格できるという安心感をもつことができたので、FARに合格した時は非常にうれしかったことを覚えています。

同時に、もう二度とFARは受けたくない、あと18か月…という思いを強く持ちました。

正直、一科目目の合格からがExpireのプレッシャーもあり、本当の学習スタートのような気がします。

【BEC】

草野先生のEcoの授業が面白かったです。

・TAC問題集と紙Becker それぞれ2回転

・Written Communication対策としては、自分で厳選したキーワード50問くらい(2,3行程度で)を暗記しました。暗記カードやボイスレコーダを活用しました。

あとは、どの問題も

「このメモは【質問文をカスタマイズした英文】を説明するためのものです。

KEYWORDは、【暗記した内容】です。

【質問文をカスタマイズした英文】については、私は【○○○】と考えます。

上記で記述した内容は【質問文をカスタマイズした英文】について一定の結論を導いていると考えます。

ありがとう。」

という型をつくりました。

英文はひどいものだったでしょうが、一定の文字数と、KEYWORDをきちんと使った英文であれば、合格点に達するのではないかと思います。

【REG】

TAXは内田先生の①直対まとめ、②厳選480、③Sim対策コースをしっかりとやれば間違いはないと思います。

・Beckerオンライン演習ソフトのSimulationは、FARと同様に全問やり、Excelにて論点整理をしました。

※TAXは、紙ベッカーを一切やりませんでした。

BLは杉浦先生の授業が面白かったです。授業の最後におっしゃる「質問のある方はなんでも結構です。遠慮なくしてください。」は印象のこっています。（クライアントとの打ち合わせにて、使わせてもらっています。）

BLもTAC問題集のみ実施しました。（BLも紙ベッカーを一切やりませんでした。）

ただし、BLもREGも空き時間・電車移動時間では、講義音声MP3をひたすら聞きました。BLは5回転ぐらい講義を聞いたかもしれません。

【AUD】

まず、TACテキストの基本問題1回転 & Simulation1回転とExcelでの論点整理をただで、1回目の試験に臨みました。

USCPA全体の戦略になると思いますが、1Q1科目1回の縛りがあり、私の場合2013年7月が最初の合格でしたので、2015年1月まで残り6Qしかないと感じました。そうしますと、1Qで最低2科目は受験したいと思いました。AUDは一番範囲が狭そうだったので、本試験でしか得られないノウハウがある（そしてそのノウハウは\$500の価値はある）と考えて、少しキツイスケジュールでしたが、受験しました。結果は65点でまったくだめでしたが、振り返るとこの戦略で良かったと思っています。（なお、この2013年11月末の受験が終わった直後はもしかしたら合格しているかも…と感じ、これはAUDの科目の特性だと思っています。数値等のはっきりした答えでない分、なんとなく選らんだ選択肢も正解かも…と感じたからだと思っています。）

2回目(2014年2月)は、

・テキスト基本問題(カッター切断) さらに1回転(トータル2回転)

・TAC問題集 1回転

・Beckerオンライン演習ソフトのSimulation さらに1回転(トータル2回転)

※結局、紙Beckerは一切やらず。

MCのテストレットが一向に難化せず、Simulationもものすごく簡単な問題で、1時間以上時間があり、結果が非常に不安でした。

結果的に77点で合格しておりました。ぎりぎり合格だったのかなと、やはりAUDはアプローチの難しい科目だと感じるとともに、とまかくこれで全科目合格でしたので、開放感とこの1年9か月にやりたかったことをできる(一歩前進できる)という思いがあり、Happyでした。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

Q6参照

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

到達試験ですので、きちんと論点を整理すれば、TACテキスト・TAC問題集・Beckerシミュレーション部分のみで合格できると思います(公会計とTAXは内田先生の直対まとめ)。そして、Expireがもっともプレッシャーになると思います。私は幸いExpireぎりぎりまでという状況にはなりませんでしたが、FAR合格後常にそのプレッシャーがありました(その分、集中力が増しました)。

仕事との兼ね合いで十分な勉強時間を確保できない場合、教材作りの期間、その後まとめて受験する期間と、分ける方法もあると思います。

各Qの前半(たとえば4月上旬)に1科目、後半(たとえば5月下旬)に1科目といった具合に、Qごとに受験戦略を立てることが私にはあいました。

私自身はこの資格を取得して大きな変化はないのですが、焦らず何らかのかたちで活かしていきたいと思っています。



会計職に就きたい、そのための標石がU.S.CPA試験合格でした。

阿部 望 さん

1977年生まれ
国際基督教大学教養学部社会科学学科、1999年卒業
勤務先：独系企業にて在庫管理を担当
中学校の2年間をアメリカで過ごしました。オレゴン州ポートランド州立大学社会学部修士課程卒業

2014年11月 USCPA試験合格（ワシントン州）
FAR：94点（2014年4月／1回目）、BEC：85点（2014年8月／1回目）
REG：87点（2014年2月／1回目）、AUD：98点（2014年11月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

現在独系企業の物流部門にて、売上や売上原価のSAP計上をしており、仕訳の知識が必要とされるため、会計を体系的に学ぶ必要性を感じておりました。将来的には、会計部門に移りたいとの希望があり、自分の実力を客観的に証明するために、チャレンジしました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

大学では、社会学を専攻したため、会計やビジネスの知識は全くありませんでした。USCPAの本科生コースを受講する前に、転職する必要もあったため、日商簿記2級を取得しました。英語力は、留学経験があり、TOEIC985点でした。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

USCPAの講座説明会でのガイダンスがとても丁寧だったので、本科生コースを受ければ合格にも近づけるだろうと思いき、TACに決めました。講座説明会で事務局の方にいろいろと質問をし、具体的な話を聞いたのでチャレンジする気持ちになりました。講座説明会に参加して、本科生コースの教科書や講義内容も充実していると感じました。また、多数の合格者を輩出している点も決め手となりました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

最終的には、合格できましたが、最初からBeckerの英語の問題集にチャレンジするのは、私のような帰国子女でも、相当難しいと思います。TACの教材は、日本語と英語が併記されていますので、内容を日本語で理解し、英語でも覚えられるような工夫がされていると思います。また、本科生コースの講義の間に、講師の先生方がご自分の学習体験なども交えてどのように勉強を進めていったらいいかアドバイスをして下さり、それが本科生コース終了後の学習に役立ちました。また、いざ試験を受けるべきか尻込みしていた時期に、内田先生より早く受けに行くようにとのアドバイスを頂き背中を押して頂いたので、決して一人で悩まず、TACのガイダンスに頼りながら試験を受けられたのが、合格につながったのだと思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学（渋谷校）で学習しました。合格までの学習期間は、2年2か月です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

講義を受けた後、それに対応するTACの問題集を必ず解き、翌週の授業についていけるよう努力しました。本科生コース終

了後は、もう一度TACの問題集を一通り解き、自分の弱い分野を特定しました。特に弱い分野については、もう一度テキストに戻り、わかるまで読み込み、テキストに載っている問題を必ず正解できるまで何度も読み込みました。その後、全体的に復習をするため直前対策講座のDVDを見ました。

BeckerのMC問題集は、TACのテキストの章ごとに並んでいる訳ではないため、受講生サイトで問題対応表をダウンロードし、テキストの章ごとに対応する問題を解いていくようにしました。その際、どの問題を正解し、どの問題を間違えたか、○と×で記録しておき、2回目に解く時は、×が○になるかどうかチェックしながら解いていきました。間違えた問題については、TACのテキストにもう一度、戻り、理解できるまで読み込みました。

直前期には、会社の昼休みにBeckerのMC集を解き、週末は、家でTBS問題を解きました。どの科目も、最低2回転は、解きました。会社の昼休みは、1時間と限られているため、本番の試験のような気持ちで時間を意識しながらMC問題を解くよい訓練になったと思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

毎回、試験を受けるたびに「タフな試験だ」と思いました。3～4時間の試験に臨むため、お盆休みやゴールデンウィークを活用し、試験直前は、5日程度は集中して勉強する時間を確保し、直前対策講座のDVDをもう一通り見るようにしました。FARの試験中には、途中で体調が悪くなり、なんとかテストレットを終え休憩をとってしのぎましたが、体調を整えて、余裕を持って試験に臨むのがいいと思います。Beckerに載っていないような難易度の高い問題も本番の試験では出るので、油断せず、かつ、TACのテキストで学んだ基本事項に忠実に答えを選択していくことが肝心だと思います。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

正直、会計知識がほとんどなく、会社でも会計実務についている訳ではないため、本科生コースについていくのは、かなり最初はしんどかったです。特に、FAR 1の授業を受け始めた時、TACの問題集の問題の多さに圧倒され、神経的にまいてしまった時期がありました。今思うと、あれを乗り越えてこそ、今があるのだと思います。仕事との両立で大変な苦勞をされる時期があるかと思いますが、そのような時は、「可能な限り」取り組むという精神が大切かと思います。特に、最初から完璧にやろうとすると、落ち込むことになりまますので、最初は大変だと思いますが、「可能な限り」問題を解いていけば、徐々に慣れていくと思います。繰り返し取り組むことで、会計の知識が積み重なっていきます。



短期集中しましょう。

K.A さん

勤務先：税理士

2014年10月 USCPA試験合格（AK州）

FAR：85点（2014年7月／1回目）、BEC：85点（2014年7月／1回目）

REG：89点（2014年10月／1回目）、AUD：84点（2014年8月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

税理士なのでその仕事の幅を広げる為

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

留学経験、外資系勤務、海外駐在経験有り。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

他1社と比べましたがTACの方が授業料が安かったこと。

また、パンフレットの中身がしっかりしていて信用できそうだったため。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師が良かった。校舎があちこちにありDVD室、自習室が身近にあった。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信を申し込みましたが、教室に土曜、日曜共に通いました。その為、一年コースですが半年で授業は終了。それでも最後のREG試験前は半分忘れていたのでREGのDVD全部見て、全科目合格までほぼ一年。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

一年で合格するつもりだったので週末は全部学習に費やしました。

土日の二つの講座のコースの宿題こなすのに大変でしたが今となっては良い思い出です。

半年で授業終了、後はひたすらBeckerを解きました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

1. 留学時のtranscriptが3回もお金を払って申請したのにちゃんと届いてないらしくNTSが申し込みから3月経過しても来なかった。結局Transcriptを自分に送付して貰い、自分から送ったところNTSがすぐに来た。
2. FARの試験はとにかく時間が足らず焦り、合格していたか確信が持てなかった。
3. WAのライセンス申請にはWA独自のEthics testに合格しなければならず、科目試験は全部一回で合格したのにこれは4回も落ちた。WA独自のEthics testは解答が公表されないのを受験する方は試験中、問題を印刷して、万が一の再受験の勉強用に備えておくのが良いでしょう。試験内容は毎回似たものが出るので前回の試験内容が一番勉強になりました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

- ・とにかくFARが大変です。授業中は簡単に感じるのですが、Becker問題には授業では取り扱いがなかった論点やFARⅢの重要論点も数多くありますので、しっかりやっておく必要があります。
- ・Beckerの模擬試験はやっておくべきですが本試験より難しいので結果はあまり気にしないほうが良いかも知れません。BECの模擬試験を本試験の2日前に受けましたが、全然合格圏に達しておらず相当焦りましたが本試験はずっと簡単に感じました。



Expertise 確立領域のスクリーニングとして

玉木 祐一郎 さん

1987年3月生まれ
慶応義塾大学 2011年卒業
勤務先：IT業界
出身大学にて、海洋生物ホヤを用いたケミカル
バイオロジーを専攻

2014年11月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：85点（2013年10月／1回目）、BEC：89点（2013年10月／1回目）
REG：81点（2014年4月／1回目）、AUD：85点（2014年11月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

社会人生活をスタートするにあたり、漠然と英語 + Accounting / Finance周りでメシを食っていくことを決めていた。その中でも自分の専門分野を作ろうと思い、そのスクリーニングのために、Accounting / Financeを英語で包括的に学べるCPAへの挑戦を決めた。加えて、「アメリカの公認会計士」という響きがカッコよかったため。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級
英語知識：英検準1級、TOEIC®TEST 990点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

模擬授業を実際に受講して、理論ガッツリ寄りでも、試験対策ガッツリ寄りでもないなと感じ、その点に好感を持ったため。加えて、校舎が駅の近くにあったので、朝寝坊して講義に遅刻するリスクを最小限にとどめることが出来ると考えたため。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

どの科目のカリキュラムも合格に必要な十分な分量があり、提供された教材を愚直に学習すれば合格できるところ。また、どの科目の講師も試験対策的な小手先のテクニックのみを教えるのではなく、その裏にある理論の解説に丁寧に時間を割くところ。と同時に、「試験対策としては」、という切り口を提供してくれるところ。そのため、学習した知識の実務応用がし易いと同時に、ある程度の勉強期間で試験に合格することができた。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学および通信、トータル3.5年、学習時間2,500時間程度

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全体的な学習方法としては、授業の受講→TAC問題集 / BRADLEY大学過去問→BECKER問題集という流れ。各BECKER問題集のタウンページ並みの半端無いボリュームに心を粉碎されて、着手するかで散々迷った挙句、各科目ごとに以下の対応を取った。結果として1回でどの試験もパスできた。

- FAR：BECKERは着手せず、TAC問題集 + BRADLEY大学過去問、を3周
- BEC：BECKERは着手せず、TAC問題集 + BRADLEY大学過去問、を3周
- REG：BECKERは着手せず、TAC問題集を3周
- AUD：BECKERに着手、2.5周

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

新入社員のころは仕事と勉強の両立に苦労したが、職場の方々の理解および手厚い支援があったために少しずつ慣れていった。また、2科目合格後に海外赴任が決まり、残り2科目の受験のために2回ほど日本に一時帰国した。受験の際は時差ボケに悩まされた。

最後のAuditの試験の際に、NTS（受験票）の会場持参を忘れてしまい大変だった（プロメトリック御茶ノ水の職員の皆様、大変ご迷惑をおかけいたしました。皆様のお陰で無事に合格できました）。会場の最寄の漫画喫茶でNTSをプリントしてなんとか受験できた。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

受験して一番に感じたことは、(少なくとも私にとっては) 巷で喧伝されているほど易しい試験ではなかったということです。私のように大学でAccounting / Financeに全く触れていない場合には、少なくともトータルで2,000時間程度の学習時間を見込まれることをお勧めします。加えて私の場合、金銭的な投資総額も150万円程度必要となりました（海外在住で日本受験のための渡航費用2回、会計/ビジネス単位0でラインセンス取得を目指した場合を想定）。時間的/金銭的な投資総額の大きさから、CPA受験への投資をしっかりと将来のIncrementalな稼ぎで取り戻せるのかは冷静に判断する必要があります。投資を実施し合格した今では、しっかり仕事でパフォーマンスを発揮し、お金を稼ぎ、投資分を取り戻さなくてはいけない、という強い動機の源泉となっています。また、冒頭で述べた当初の目的につきましては、将来的な自分のExpertiseの確立分野の目処を立てることができました。今後はその分野に特化した学習を行っていきたいと思っています。



自分を信じて前に進もう！

藤居 陽 さん

1986年生まれ
慶應義塾大学 2008年卒
勤務先：エンジニアリング会社

2014年11月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：82点（2014年2月／2回目）、BEC：75点（2014年6月／2回目）
REG：81点（2014年11月／1回目）、AUD：75点（2014年8月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

英語と会計2つの知識を得ることは今の仕事にも役立つし、また今後のようなキャリアに進む場合もこれらの学問は幅広く活きて考えたためです。講座カリキュラムが社会人にも通える様に設定されていたため、これなら仕事と両立して資格が取れると考え受験を決意しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級(実務経験なし)
英語知識：TOEIC®TEST 875点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

以前簿記受験のためにTAC講座を受けており、その内容が好印象であったためです。仕事をしながら受講するため限られた時間で成果を出す必要がありますが、TACの講義内容は要点を纏めたもので無駄がなく合格への最短コースを教えて貰ったと感じています。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

受験を決意したのは2011年でしたが、講座を申し込んだ直後に海外赴任となってしまいました。一旦は諦めましたが2013年帰国後に5年間継続再受講制度を知り、おかげで安価な受講料で勉強を再開することが出来ました。

講師の方々は皆個性的で毎回の講義を飽きずに受講することが出来ました。

TACの教材は日本語で要点を丁寧に説明しているため分かり易かったです。特に直前対策まとめの教材は最後に短時間で全体を把握するために非常に役にたったと感じます。

またBeckerのOnline教材は非常に役立ちました。ネット環境であればどこでも自由に勉強が出来るため、隙間時間を有効利用できたと思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学
学習期間：約1年半

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

【全般】

習慣化することを心がけました。夜はどうしても仕事次第で勉強時間を確保することが難しいため、朝早起きをして会社始業前に1時間程度勉強するように習慣づけました。

そして、隙間時間を利用することを心がけました。電車に乗っている時間や待ち合わせの合間などでBeckerのOnline問題集を1問でも解くようにしていました。

【科目別】

① FAR：Beckerよりも主にTAC教材を中心に勉強しました。試験範囲が広いので、TACの教材に手をつけるので精一杯でしたが、それでも試験を突破するための理解を得るには十分だと感じます。

またFARで学ぶ知識は他の教科の理解にも十分役立つものだと思います。一番初めに受験しました。

- ② BEC：Written Communicationでは高得点は望めないと考え、Beckerを中心にMultiple Choice(MC)の問題を丁寧に解きながら理解を深めました。WrittenはTACの直前対策まとめの問題を中心に読み書きをしながらキーワードを記憶しました。
- ③ AUD：1度目の受験で落ちた時は英語の読解力不足だと考え、その後Beckerを中心にMCの問題を練習しました。Beckerの問題を繰り返し解くことで問題のパターンを理解することができたと感じます。
- ④ REG：TAXは講義で使用される纏めノートをいつも持ち歩いていました。要点がコンパクトに整理されていて理解に大いに役立ちました。TAXは主にTAC教材を使って勉強し、Beckerは試験2~3週間前に最終確認のためにランダムで問題を解いた程度でした。BLは講義中の要点を自分なりに纏めて、後はBeckerの問題を一通り解いて理解を深めました。REGはFAR同様試験範囲が広いので、要点に絞って繰り返し勉強するようにしました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

当初の計画よりも受験のための必要単位の取得に多く時間を取られてしまい、授業の進捗と受験のタイミングを合わせることが難しかったです。それでもDVD等でフォローすることが出来ましたが、授業計画と試験計画、単位取得計画は前広に立てることをお勧めします。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

2点あります。

- ① 是非躊躇せずに試験に挑んでください。私は試験の結果よりもスケジュールに拘りました、試験は不合格となることもありましたが、1度受験することで問題の傾向や、時間配分など自宅の勉強では得難い経験を得ることが出来ました、結果的に2度目の試験に大きく役立ったと思います。是非勉強を始める際はいつまでに合格するか、そのために何をいつまでにしていないといけないのか、時間は有限ですのでそれぞれの優先順位を計画してみてください。
- ② 共通の目的を持つ友人を多く持つことを勧めます、特に通学の方はクラスの方と話をしてみてください。私はクラスの方と度々情報交換することで、勉強は勿論、精神的にも大変助けて頂いたと感じています。感謝の気持ちでいっぱいです。

毎日着実に実力を積み重ねていくこと



Y.M さん

1971年3月生まれ

勤務先：海外の国際機関

2014年7月 USCPA試験合格（ワシントン州）

FAR：90点（2014年4月／2回目）、BEC：83点（2014年4月／2回目）

REG：78点（2013年12月／1回目）、AUD：83点（2014年7月／3回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

これまで経理の仕事をしてきましたが、経験をアピールする他に実力を客観的に示すものがあればと思っていました。現在の職場でも資格保持者のほうが昇進などに有利なため、受験を決めました。

実は数年前に一度学習を始めたのですが、毎日の仕事が忙しく断念していました。去年から比較的時間の自由が利きやすい職場に配属され平日の時間にも余裕が出来たため、これをチャンスと考え集めて学習するようにしました。

現在は海外で勤務しています。海外で知名度の高い経理/会計の資格は他にもあるかと思いますが、日本語の教材がこれほど充実しているものはUSCPA以外にはないと思います。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

経理担当として一通りの経験を積んでいました。現在は英語だけの環境で仕事をしています。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

教材の質と量です。

他校の教材も比較検討しましたが、テキストの量と質ではTACが圧倒的でした。勉強中に分からない点があった場合に辞書代わりにして使うことを想定していましたので、テキストが重要だと考えていました。テキストは勉強の最後の段階までしばしば参考にしました。索引も充実しており、とても使いやすかったです。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

どのテキストもとても役に立ちましたが、TaxとLawのテキストが大変充実していました。どちらも私にはなじみの薄い分野のため学習前はやや不安がありましたが、TACのテキストはよくまとまっており、論点を手早く正しく理解することができました。1回目の受験は、準備不足でどの科目もまったく自信がなかったのですが、REGだけは合格することができました。

Beckerもとても役に立ちました。各問題の取り組み回数や各単元の問題消化数などが分かるので、弱点をつぶし込むときに重宝しました。また、Beckerにはランダムに問題を出す機能があります。ただランダムに出してくるのではなく、分野ごとの問題数の配分を考えて出題してきます。この機能は直前対策でもよく利用しました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信で学習しました。

おおよそ1年あまり、出勤前や帰宅後、毎日4-5時間を勉強に費やしました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと/科目別）

全般：私の場合、勉強を1日休むと調子を挽回するのに数日掛かることに気づきました。このため、毎日欠かさず勉強するよう心がけました。一日のある決まった時間を勉強に充てるよう生活をパターン化して、机に向かうのが自然な環境を作りました。思わぬ副次的な効果で、したいに家族も同じ時間に一緒に机に向かうようになりました(笑)。

また、試験では英文の問題文を素早く読むことも大事な要素です。このため、やや堅めな英文の本や雑誌を折につけて読むようにしました。ニュース雑誌のあまり関心がない記事にもあえて目を通し、論点をきちんと理解するよう心がけました。慣れると、ゆっくり読んでいるつもりでも意外に速く読めるようになっていました。

AUD：一つの設問の中で複数の論点を問うような、文章がやや複雑な問題があります。文章が長く込み入っており、初めて目にしたときには早く読まなくてはと焦ってしまい正しく解答できませんでした。たとえ文章が長くても、結局は論点をきちんと追いかけてながら読むしかありません。また、長い文章であっても実際には読むのに思ったほど時間は掛かっていないものです。このことが

分かっただけでは、文章の長さにとらわれず論点をきちんととらえて読むよう心がけました。

BEC：TACのWC対策教材を活用しました。例題の解答例を自分なりに分析し、解答の書き方のパターンを学びました。その後、このパターンを使いBeckerのすべてのWC問題について自分なりの解答を作成しました。このため実際の試験でも余裕をもって解答することができました。

FAR：実務に最も近い科目でしたので、すんなり理解することができました。公会計はなじみが薄かったので、テキストに書かれていることをきちんと理解するように努めました。公会計の直前対策まとめは理解をする際にもとても役に立ちました。

REG：財務会計や監査は多少なりとも実務で経験したことがあったので理解しやすかったのですが、Lawはさっぱりでした。出てくる考え方や用語など、他の科目と異なり日本語でも理解が難しく感じられました。これは試験勉強以前の問題だと観念し、市販の(日本の)商法のやさしい入門書を読み、まずは基礎的知識を得るようにしました。その後テキストに取り掛かるとすんなり理解することができました。取引の基礎となっているものを改めて勉強できたことは良い経験でした。

LawもTaxもTACのテキストは的を射ており、論点がよくまとまっていたように思います。上記の商法の入門書のほか、テキストとBecker演習をした以外には特に対策はしませんでした。1回目の試験で合格することができました。

問題演習：Beckerに取り掛かってはじめての段階では、まずは時間を気にせず論点を正しく理解し解答できるよう練習しました。問題を解く際には、正しい選択肢がなぜ正しいのか、また他の3つの選択肢がどう正しくないのかを考えながら解答するよう心がけました。

ひとつおりの論点を理解できた段階から、時間に気を付けて解答するようにしました。各章の正答率や解答時間などをエクセルで管理し、どの分野でも万遍なく素早く答えられるよう心がけて学習しました。このため、どこから出題されても大丈夫な自信を持って試験に臨むことができました。

間違えやすい論点は人それぞれです。どの教科も、問題を解いていて気付いた点や知らなかった論点などについて自分でまとめノートを作りました。試験直前にこのまとめノートを見直して自分の弱い点を素早く補強することができました。

試験直前は、昼休みの30分を使いBeckerからランダムに出てくる30問を解ききる練習を繰り返し行いました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験前の体調管理に尽きます。ある科目の受験の時、寝不足などもあり体調が思わしくなく、試験に集中できなかったため時間切れとなり不合格になりました。試験直前の詰め込みなどもってのほかです。受験の前は栄養のあるものを食べしっかり睡眠をとるなど、万全の体調で臨むのがよいと思います。

受験の時には意外に緊張しました。早目に会場に着く、事前にトイレに行くなど、できることをするよりありませんが、会場での手続きや試験の進行などをあらかじめ確認しておくのも役に立つと思います。たとえば、席に座ってから試験の残り時間がカウントされる(=問題の解答を始める)前に、数分間の時間的余裕があります(Beckerに付いている模擬試験はこの点も考慮されており感心しました)。この時間で心を落ち着けたり集中力を高めたりするなど静かに準備することができます。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

それぞれの論点をきちんと理解できていなければ合格するのは難しいと思いますが、TACのテキストや講義には理解を深めることができる詳しい説明があります。勉強しなければならぬ論点も多く学習時間も掛かりますが、難解なわけでは決してありません。毎日着実に実力を積み重ねていくことで合格レベルに達することができる試験だと思います。私にとっては久しぶりの受験勉強でしたが、知識を毎日増やし深めていくのは楽しい経験でもありました。みなさんの健闘を祈っています。



集中できる環境を自ら作り出しましょう！

玉井 隆秀 さん

1990年1月生まれ
京都大学 2012年卒
勤務先：日系事業会社

2014年8月 USCPA試験合格（ニューハンブシャー州）
FAR：85点（2014年1月／1回目）、BEC：81点（2014年2月／1回目）
REG：82点（2014年4月／1回目）、AUD：94点（2014年8月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

将来的に自分がやりたい仕事というものを考えた時に、経理や財務関連の業務に就きたいと考えたこと。また、仮にそのような業務に就かなくとも英語で会計やビジネスを学習することや、限られた時間の中で資格取得に取り組む過程が将来の役に立つと感じたため。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級(実務経験なし)
英語知識：TOEICは900点以上ありましたが、会話には慣れていないという状態でした。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

様々な予備校のホームページを参照しましたが、単位取得や受験手続等のサポートがしっかりしているという印象を受けたこと、Becker教材が利用できることが主な理由です。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師の説明は全般的に非常にわかりやすく、的確に重要なポイントを教えていただけました。教材についてはTACのテキスト、問題集だけでも合格可能なぐらい質が高かったです。講義回数は多く感じましたが、振り返ってみると必要十分な量だったのかなと感じています。内田先生の直前対策まとめをはじめとして、教材や講義の中に各講師の工夫が凝らされていて学習しやすかったです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信での学習でした。
学習期間は1年4ヶ月程度です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

【全般】

土日に2本の講義を見て、平日の通勤時間等に講義の復習や問題演習をする、というのが基本的なサイクルでした。土日に予定が入ったり、平日の退社後は思うように勉強できないことも多かったのですが、FAR以外は試験日を早めに決めて自分を追い込みました。

最初の科目のFARについては、合格までに必要な学習量が掴めずなかなか試験日を設定できませんでしたが、試験日を決めてしまった方が集中して取り組むことができたので、ある程度目処が立った段階で試験日を決めてしまうことをオススメします。

【科目別】

【FAR】

講義回数や学習量が多かったこと、最初の科目だったため要領が掴めず苦しかったです。講義は全て見ましたが問題集はやったりやらなかったりでした。一通り講義を見終わった後、テキストを読み返しつつTACの問題集を1周しました。その後、Becker(MC)を解きつつ理解不足の部分はTACのテキストやBeckerのテキストを読み返し

ました。直前期は「Simulation対策&総まとめ講義」テキストを繰り返し読み、BeckerのSimulation問題の演習、Final ExamやAICPAリリース問題(2年分)などをこなしました。

【BEC】

FARと同様に一通り講義を見終わった後、テキストを読みつつTACの問題集を解きました。時間的な制約からBeckerは一切取り組みませんでした。代わりにTACの問題集を繰り返し解き直しました。また、「Written Communication対策&総まとめ講義」を読み込みました。Written Communicationについては、TACテキストの注釈を繰り返し読むことでキーワードを押さえました。Written Communicationは文章の構成や基本的な論点を押さえれば書ける問題も出題されるので、捨ててしまわず対策をした方が良いと思います。

【REG】

TAXは細かい論点が多い科目ですが、直前対策まとめを何度も見直し少しずつ整理していきました。直前対策まとめとTACの問題集をしっかりこなせば十分合格レベルに到達すると思います。BLに関しては範囲が膨大過ぎてまんべんなく取り組む気になれなかったため、杉浦先生がAランクに指定された論点のみに絞って学習しました。Aランク指定は非常に的確でした。REGもBecker教材には取り組んでいません。

【AUD】

土日に講義DVDを見つつ、平日に復習と問題演習に取り組むというサイクルを一番順調に回すことができた科目です。一通り終わった後はBeckerのMCを1周し、不正解の問題のみ2周、3周しました。直前期は、Progressテストを繰り返し解いたりFinal Examに取り組んだりしました。きちんと対策できたこともあって一番高得点を取ることができました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続については、TACのホームページに掲載されている通り実施し、滞り無く進めることができました。受験については3科目を大阪で、1科目を東京で受験しました。GWやお盆の時期はテストセンターの予約が埋まるのも早いので、その時期の受験を検討されている場合はなるべく早めに予約した方が良いと思います。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

USCPAは試験範囲が広く、その分一朝一夕の勉強では合格は難しい試験だと思います。その一方で、問題の難易度自体がそれほど高いわけではないのでコツコツと学習を継続し、弱点を作らないようしっかり対策できれば合格できる試験であるとも言えます。1年以上に及ぶ学習期間においては、やる気が出なったり思うように時間が取れない時期もあると思います。そのような時は、取得を目指そうと決めた時の気持ちを思い出して自分を奮い立たせてください。最後の最後まで諦めず頑張ってください。



あきらめず勉強し続けることが大切！

R.M さん

1961年2月生まれ
慶應義塾大学 卒業
勤務先：金融機関

2014年5月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：80点（2014年1月／1回目）、BEC：76点（2014年5月／2回目）
REG：78点（2013年11月／1回目）、AUD：76点（2014年4月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

金融機関に勤めており、以前からUSCPAに興味がありました。主人のアメリカ赴任に同行することになり、せっかくなら自分も今後のキャリアアップ繋がることをしようと思い受験を決めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級
英語知識：TOEIC®TEST 700点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

簿記受験の際、TACにお世話になったので、会計系の資格はTACというのが頭にありました。説明会で試験概要について詳しく説明して下さったこと、アメリカに教材を送っていただけることから、TACのDVD通信講座を申し込みました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

TACのテキスト・講義ともに要点よくまとめられていて良かったです。また、Becker教材を使ったことも本番の試験に慣れるという点で合格につながったと思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信で学習しました。合格までは1年10か月です。アメリカでは語学学校に通っていたため、そちらが忙しいときはとりあえずDVDを見て、教材がたまらないようにしていました。試験1～2か月前は1日6時間くらい勉強していました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

インプット期はDVDで受講後、対応する箇所の問題集を毎回解きました。授業が一通り終わった後、問題集をもう一度解き直し、その後、Beckerの問題集を解き始めました。試験直前はMultiple Choice (MC) をランダムで100問毎日解き、80点以上をキープできるようにするまで練習しました。

(FAR)

ボリュームが多く大変ですが、TACの教材とBecker問題集で合格することができました。TACの問題集、Becker問題集ともに3回ほど繰り返し、直前期はランダム100問を毎日取り組みました。模試では時間内に解き終わることができませんでしたが、問題練習を繰り返すうちに、テンポよく回答できるようになり、本番では余裕をもって終えることができました。

(REG)

TACの問題集を2回繰り返しした後、BeckerのMCをひたすら解きました。TAXに関しては講師の方が作成したまとめノートが非常に役に立ちました。Business Lawに関しては、授業で講師の方が重要とおっしゃっていたところを中心に自分でまとめノートを作りました。試験前に体調を崩し、あまり勉強時間をとることができませんでしたが、まとめノートのおかげで効率よく復習でき合格することができました。REGは暗記事項が多いので重要どころを見直せるよう

にしておくことが大切だと思います。

(BEC)

唯一2回受験した科目です。暗記のボリュームが少なく、大学で学んだことも多かったので学習はほかの科目よりもスムーズに進みました。しかし、Written Communication (WC) をなにも対策せずに挑んだところ、他分野は合格点に達するもWCでWeakerが付き74点で不合格になってしまいました。BECはMC偏重だとは思いますが、WC対策も必要だと痛感し、2回目はTACテキストで英文の形式を学び、文法や文章構成は主人に頼んで添削してもらいました。それに加えてMCでできるだけ点数を落とさずWCの弱点をカバーできるよう、Becker問題集を再度解きました。試験後は自信がありませんでした。なんとか合格することができました。

(AUD)

なじみのない科目だったので、不安でしたが、TAC教材で基礎を学習し、Becker問題集を繰り返し解くというほかの科目と同じ方法で取り組みました。講師の方が暗記とおっしゃった文章は試験までに暗記しました。英文読解力が求められる科目だと思いますが、基本的な条文の暗記と問題練習で英語力の不足はカバーできると思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

アメリカでの単位認定は年数回しか行われず、不合格となると全体の受験計画に支障が出る為、緊張しました。問題自体はUSCPAより易しいためTACの受講生情報サイトに掲載されている過去問を解いていけば大丈夫だと思います。その後の受験手続は特に問題なく進みました。本番は初回こそ緊張しましたが、何回か行くうちに会場の雰囲気にも慣れ、リラックスして受けることができました。DVD通信かつ海外にいたため閉ざされた環境での試験勉強でしたが、主人やアメリカでの友人たちのおかげで勉強を続け、合格できました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

英語ができるだけでは今後差別化が難しいと思うのでUSCPAに合格することは大きな強みになると思います。BECで不合格になったときは本当に合格できるか不安になりましたが、あきらめないで続けていけば必ず合格できる試験だと思います。これから受験される方も頑張ってください。



七転び八起き！最後は諦めないものが勝つ！

S.N さん

1961年2月生まれ
慶応大学理工学部 卒業
勤務先：メガバンク
中小企業診断士、証券アナリスト、
事業再生士補、プロフェッショナルCFO

2014年8月 USCPA試験合格（WA州）
FAR：78点（2014年8月／8回目（TAC受講後2回目））
BEC：75点（2014年8月／12回目（TAC受講後7回目））
REG：75点（2014年2月／4回目（TAC受講後2回目））
AUD：75点（2013年5月／10回目（TAC受講後2回目））

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

業務で決算書・財務分析や格付付与、M&Aの価格算定等をやっていました。国内の上場企業の中でSECやIFRSを導入する企業が増えていくこと、また、一方で国内企業の国際化が進んでいる（国際間のM&Aも含め）ため、英語力と国際的な会計の専門的知識をより高めようと考えました。国際化進展の下で必ず必要になるのが、ビジネスにおける共通のモノサシです。そこで、自分の業務に近く、今までの強みを生かせる分野として会計を選択しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記3級レベル
英語知識：TOEIC®TEST 750点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

最初はTACを選択しませんでした。業務等の時間的な制約から、短時間でこれだけの多くの教材をこなすことができないと感じたためです。そこで、他校の「必ず出るとこだけ」にポイントを絞って短時間で合格する方法を選択しました。しかし、その方法だと70～72点は出せるが、どうしても75点を超えることができませんでした。結局、10回以上トライして合格できたのはFARとREGだけでした。そのうち、科目合格も失効してしまい、再度対策を考えました。70～72点を75点へ引き上げるためには、さらに今までに努力した勉強量と同程度の勉強の積み上げが必要と感じ、TAC教材の導入を決めました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

主にBecker問題集や直前対策、WC対策など、ピンポイントで活用可能なもの／自身の弱点を補強するものを順次活用しました。時間上の制約から、コンパクトにまとまっているもの・持ち出しやすいもの・手軽に学習できるものは必要とあれば全て利用しました。英語で書かれたポイントと並行して日本語表記（解説）がされている点が理解しやすかったと思います（但し、極力英語そのもので理解しようとしました、日本語訳は補助的に活用しました）。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信です。（期間は他校での学習期間もあわせると5年以上、途中で2科目科目合格が失効しましたので）総学習時間は8000時間、あるいは10000時間を超えていると思います。但し、後述しますが、時間は関係ありません。いかに短時間でいいから集中して、実力が100%近く発揮できる状況に持っていかれます。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

当初は勉強に時間をかけることを考えていました。しかし、全科目合格前1年前から考え方を変えました。必ず試験に出る内容は常時頭の中に入れて、いつでもアウトプットできるようにしておくことが重要だと。そのため、短時間でもよいから、毎日少しずつ重要なところを勉強する（インプットとアウトプット、インプットは講義や解説を聞く／読む、アウトプットは関連した問題を解く）ことにしまし

た。とにかく時間だけダラダラとかけてもしょうがないので、能率が悪ければ、さっさとその日の学習は切り上げて休みをとって翌日以降に出直すようにしました。

さらに、勉強せざるを得ない環境に自分を置く、すなわち少しでも時間が空けばどこか近くのTAC自習室か図書館、あるいはカフェなどに行きました。TAC自習室だと、同じ仲間がいるのでいやがおうにも勉強に取り組むことができます。しかも、そのときには邪魔になるスマホなど遊び道具は必ず携帯しないようにしました。朝でも仕事が遅番の時は7:30～8:30までTACの自習室を使わせていただきました。休日は午前中と夕方の2回に分けて（各3時間程度の短時間で）自習室で集中して学習しました。短期の目標を設定すれば効率よく自分でも実行しやすいので、それを積み上げていくことを心がけました。

これらの要点に気が付いてから、学習を開始して最後5年目の1年間で4科目ポンポンと合格をすることができました。本番でコンディションを100%本領発揮できるということはありません、大体80～90%ぐらいが妥当と考えておいた方がよいでしょう（特に本番のテストで難しい問題に連続であたると、その後のパフォーマンスは精神的不安から必ず低下します）。そのような状況下で75点以上をとるためには、やはり普段から90点近くを出せるように対策を考えておいた方がよいと思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

当初、ワシントン州について出願準備の為、学歴審査と要件をみたしているかどうか、NASBAに照会をかけました。ところが、NASBAの担当者がメイン州の審査資料と取り違えてしまい、ワシントン州について学歴要件不足と判断されてしまいました。その結果、そのトラブル対応の為、メールを何度もやり取りし（当然英語です）、出願が3か月以上遅れる事態になりました。（日本と違い）海外でのトラブル処理には時間がかかりますので、準備は早めに進めた方がよいでしょう。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

USCPAは簡単に取得できるようなコメントが各種HPに掲載されていますが、大きな間違いだと思います。また、勉強を続けていけばいずれは合格するようなコメントも見受けられますが、これも間違いだと思います。勉強していれば合格する！そんな簡単な資格ではないと思います。合格者のコメントの陰で、途中で諦めた方の方がもっと多いはず。私の場合は、典型的な受験対策失敗例です。10回以上受験してダメだったんですから、普通はそこで諦めますよね。幸運だったのは、そこで諦めずに、やり方が悪かった、こういうやり方をすればうまくいくんだと気が付いたことでした。とにかく、自分にふさわしいやり方を早く見つけ出すこと、これが合格への近道です。失敗したからといって、落ち込むことはありません。今までのやり方が悪かった、別のいい方法があるのでとは前向きに考えて、自分で工夫してゆることが大切です。その中で、必要な教材を状況に併せて活用すればよいと思います。お金は自分に対する将来への投資だと考えればよろしいかと思います。



粘り強い精神で練習を続けましょう！

KONAN LAURENT さん
(コナン・ローレント)

国際大学ーMBA 2008年卒
勤務先：会計事務所

2014年5月 USCPA試験合格（ワシントン州）
FAR：85点（2013年5月／1回目）、BEC：79点（2014年5月／1回目）
REG：78点（2013年11月／1回目）、AUD：82点（2013年8月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

来日の際に中断したフランス公認会計士試験の代わりに国際的な資格を取ろうと思って、最も自分の社内ステップアップと目指しているキャリアに貢献できるU.S.CPAを選びました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：大学・大学院とMBAの専攻は会計とファイナンスで、仕事も同じ分野なのである程度の知識を持っていました。

英語知識：日本の学生と同じように中学校時に勉強を始め、流暢レベルでした。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

いろいろな学校の説明会に伺いましたが、TACが1番丁寧で分かりやすくU.S.CPA試験のプロセスを説明してくれました。

また、1対1で納得できるまで個別で相談でき、心配事を解消してくれたのも良かったです。

それに教科書は英語と日本語の併記ですし、BECKER教材もセットに含まれているというのも決め手になりました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

外国人として学習の際は英語の教材をメインに使うことになると考えていましたが、日本語の説明がかなり分かりやすいと気づき、とても役に立ちました。

授業時の先生も基本的なポイントまで丁寧に説明してくれましたので、それだけで十分にMCQが解けました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信講座で申込みましたが、フリーパス制度を活用し毎週通学をしました。

合格までの学習期間はトータル2年です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全ての授業に出席し、先生の説明に基づいてノートを取り、TAC問題集を1回解きました。

復習の際はTACの総まとめテキストのみを読んでBECKERのソフトでMCQとSimulationを解きました。MCQは1章目から繰り返し解きました（Progress Test）。

そして科目ごとの授業期間が終わった後に、3ヶ月おきに受験しました。

（平日と週末の学習時間）

※およそ1・2週間で1章を学習できるようなスケジュールで勉強していました。

<平日>

通勤電車→30分 総まとめテキスト

昼休み→45分 BECKER MCQ

夜（11・12時から）→30分 総まとめテキスト、
60分 BECKER MCQ

<週末>

60分BECKER MCQ、120分Simulation

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

TACの受講生専用ホームページにある手続きの説明ファイルを使ってスムーズに進みましたが、学歴審査は2ヶ月以上掛かりました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

油断しないことがとても重要だと思います、1週間でも勉強をサボったら殆ど忘れますので極力毎日勉強して下さい。5問でも10問でもMCQを解いてみれば十分です、間違ってもいいです、ただその時は解説を必ず呼んで下さい。言い訳は絶対ダメです。私は繁忙期に海外出張も有って、子供も産まれたのに勉強を続けましたので、コツコツ続ければ合格は決して無理ではないと思います。



TAC + Beckerで合格

M.O さん

岡山大学 1997年卒業
勤務先：外資系企業

2014年5月 USCPA試験合格（グアム州）

FAR：78点（2013年11月／1回目）、BEC：79点（2014年5月／2回目）

REG：82点（2013年8月／2回目）、AUD：89点（2013年5月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

学生時代から海外で通用する専門知識を身につけ資格を取得したいと考えていました。卒業後主に経理の仕事をしてきましたが、外資系企業への転職を機にさらに専門知識を深め、キャリアの幅を広げるためにUSCPA試験の学習を始めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級
英語知識：TOEIC®TEST 800点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

他校で長く学習しAUD以外3科目を受験しましたが、思うように合格できず行き詰まりを感じていました。米国人の同僚から米国ではBeckerに定評があることを聞き、またTACがBeckerの教材を提供していることを知りメールで相談させて頂きました。他校学習経験者割引、教育訓練給付金制度を利用できることもわかり、思い切って本科生コースを申込みました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

Beckerの教材が利用できたことです。本科生コースでは、直前対策講座、Becker教材、模擬試験がすべてコース料金に含まれており、追加の費用が発生しないところも魅力だと思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

TACでDVD通信を申し込んでから合格までは1年半です。その前に他校での学習期間が5年近くあり、その途中海外赴任、仕事の繁忙期などで何度か学習を中断したため通算すると6年ほどかかりました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

他校でひたひた学習済だったので、Beckerの教材を中心に問題演習を繰り返しました。本試験では時間が不足しがちなので、時間管理を意識して問題を解きました。MC問題もそうですが、特にBeckerのTBS問題は本試験に近く実践演習として役立ったと思います。

(AUD)

内容はそれほど難しくありませんが、英文の問題を読むのに負担がかかります。テキストで内容を確認しながら問題をたくさん解くうちに、キーワードを覚え、問題のパターンのようなものが見えてきたと思います。

(REG)

Taxに重点を置き問題演習を繰り返しました。そのせいか一度目の受験ではTaxの結果は良かったのですが、BLがWeakerとなり1点足りず不合格でした。やはり出題割合が小さいといってもある程度問題演習をこなしておくことが必要だと思いました。

(FAR)

唯一他校の教材で合格した科目でしたが、結局Expireとなり再受験しました。ボリュームが多く大変ですが、準備時間が足りないときは公会計を抑えておくとういと思います。本試験でも、公会計の問題が多く出ていたように思います。

(BEC)

他校で学習時代に4回不合格となり、一番苦手意識が強かった科目です。以前と大幅な内容変更があったため、TACのDVDやテキスト、問題集を利用して再度基本事項を整理したあと、BeckerのMC問題集を解きました。過去の失敗から不安が大きかったのですが、結果的には他の科目と同様に、テキストや付随の問題を解きひととおり学習した後、BeckerのMC問題集を繰り返し解くというやり方であったと思います。WCはBeckerの問題をPC上で演習し、解答のパターンを身につけました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続は比較的スムーズでした。日本での受験が可能となったからは、すべて日本で受験しましたが、渡米するより食事の面などコンディションを整えやすかったと思います。試験会場では受付を済ませてすぐに名前を呼ばれ受験することになるので、待合室で勉強をする時間はありませんでした。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

私は過去にいつも1、2点足りず不合格という結果に悩んでいましたが、TAC/Beckerの教材で学習を始めてからは驚くほどスムーズに次々と合格できました。評判どおり信頼できる教材だと思います。勉強のやり方に不安を感じたときには、個別相談なども応じて頂けるので、TACを存分に利用して頑張ってください。



現在の努力は将来への投資！

日高 正悟 さん

1987年生まれ
神戸大学大学院 経済学研究科 2012年4月卒業
国家公務員

2014年4月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：83点（2014年2月／1回目）、BEC：80点（2014年2月／1回目）
REG：89点（2014年2月／1回目）、AUD：95点（2014年4月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

大学時代の友人に取得を勧められたことがきっかけです。それまでUSCPAという資格自体を知らなかったのですが、会計やビジネスに関する広範な知識が得られることや仮に将来海外で働くことになった際にもプラスになるといった点に魅力を感じ、挑戦を決意しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語は日常会話には困らないレベル、会計は全く知識がありませんでした。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

地方に住んでいるため通学することができず、通信教育を探る中でTACと出会いました。受験に必要な単位を取得でき、また受験までの流れの説明が丁寧で頼りになると感じ受講しました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

総まとめのテキストには本当に助けられました。USCPAの試験は問われる知識の幅が広く、時々自分が勉強していることが全体の中でどのような位置づけにあるのか分からなくなってしまうことがあります。

そんな時は教科ごとに試験範囲を1冊でまとめた総まとめテキストを参照することで頭の中を整理できました。特にREGに関しては、他の参考書ですと個別の論点を詳しく解説しているものが多く全体を俯瞰できるテキストが少ないので、総まとめテキストは重宝しました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信DVDコース（Becker上級コース）で勉強しました。学習期間はTACに申し込む前の学習期間も含めて2年程です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

私は会計に関してはゼロからのスタートだったので、まずはFARとBECの勉強から始め、ある程度の基礎知識が備わるまでAUDやREGには手を付けませんでした。FARの学習ではBATICの試験を受けてみたりBECの学習ではビジネス書を読んだりすると、勉強が単調にならないようにいろいろな工夫をしたことで効率的に学習できたと思います。その後のAUDやREGの学習の際は洋書の参考書で細部を、DVDとテキスト

で全体像や他の論点との関わりを学習しました。特にDVDを何度も繰り返し見たことで、暗記の必要な事項も比較的苦労せずに覚えることができました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

当初から「本試験はアメリカで受けよう！」と決めて学習し、本番は2月にハワイへ旅行して受験しました。旅行という明確な目標を持ったおかげで2年近い準備期間も全く苦にならず、高いモチベーションを保つことができたと思います。一方、旅行中という限られた時間で試験を受けるため、1日に2科目受験するといった厳しい試験日程を組むこととなり、結果AUDを再受験する羽目になってしまいました。海外での受験を考えている方は日程に余裕を持ちましょう。また時差ぼけには注意が必要です。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

USCPAの学習には時間と根気が必要です。しかし試験に合格すれば、それに見合うだけの幅広い知識や自信が身に付きます。合格への道のりは人それぞれかと思いますが、USCPAの勉強に注いだ時間はきっと無駄にはなりません。既に学習を始められた方もこれからの方も、現在の努力は将来への投資だと思って、合格目指して頑張ってください。



TAC METHOD は嘘をつかない！信じて短期合格！

大橋 暁 さん

1985年生まれ
法政大学 経営学部 2008年卒
地方公務員

2014年4月 USCPA試験合格（ニューハンブシャー州）
FAR：90点（2013年7月／1回目）、BEC：81点（2013年8月／1回目）
REG：81点（2014年2月／1回目）、AUD：83点（2014年4月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

TACで日商簿記1級に合格した後、より実務に活かせる資格を取りたいと思って手に取ったのがU.S CPA講座のパンフレットでした。日本の公認会計士や税理士の資格と比較してU.S CPAは試験内容も幅広く、さらに英語力を上げることも可能で、より対外的にアピール可能だと思いました。働きながら取得可能という点もあり、U.S CPA試験にチャレンジしようと思いました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記1級、大学経営学部で受講する程度
英語知識：英検2級程度でしたが、大学卒業後はとくに英語の勉強はしていませんでした。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

以前、日商簿記1級もTACで受講し、合格することができたことから、TACなら合格できると信頼して決めました。通信教育に対するサポートも十分で、Beckerを利用できることも大きな魅力でした。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

TACの講義は試験で出るポイントをしっかり押さえていて、無駄なく効率よく学習することができました。テキストで強調されているようなところや、講師の方が講義で強調していた点が実際に試験にも多く出題されていて、試験を受けるたびにTACに信頼度が増していきました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信
1年6か月

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

仕事の後や土日などしか時間がとれず、なかなかまとまった勉強時間を確保できなかったことから、講義DVDを3時間まとめてみることはなかなかできませんでしたので、きりのいいところまで見てTACの問題集を解くというのを繰り返しました。問題集を1周した後はすぐに2週目を始め、わからない部分はテキストに戻るなどして知識を定着させました。苦手分野をなくすことが重要だと講師の方がおっしゃっていたので、2週目で間違えた部分のみ3周目も解き、各章で9割以上の正答率になるまで繰り返して問題を解きました。

Beckerは試験1か月ほど前から着手しました。TACの問題集で出た問題でもバリエーションを変えて出てくるので、より本番向きの知識をつけることができました。ただ、TAXに関しては内田先生がTACの問題集のみで十分とおっしゃっていたのでBeckerはやりませんでした。十分合格点に達することができました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

大学を中退し、他の大学に編入しているからか、学歴審査がなかなか返ってきませんでした。3か月ほどして審査結果の送付がありました。

学歴審査の遅れもあって余裕を見てNTSの申し込みをしましたが、こちらはすぐ返ってきました。6か月以内に受験が可能とは思っていましたが、仕事も忙しくなってきたので、最後の受験科目だったAUDは受験期限の3日前でした。受験料も安くなく、NTSは比較的手続きも簡易で返信も早いことから、近々に受験する科目だけ申し込むのもいいかもしれません。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

CPA試験は合格率が低いとはいえ、簡単に合格できる試験というわけでもありません。ただ、まじめに少しずつでも問題を解いていけば必ず合格できる試験だと思います。Beckerはスマートフォンでも問題演習ができることから、電車の中、休み時間など、隙間時間も有効活用して勉強を進めれば、きっと短期合格もできると思います。

最後までやり通す、その強い意志が大切



T.Y さん

上智大学 2006年卒
勤務先：外資系メーカー

2014年4月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：78点（2013年7月／1回目）、BEC：78点（2013年10月／1回目）

REG：81点（2014年1月／1回目）、AUD：75点（2014年4月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

1社目の会社が倒産した際に自分が自分の会社の財務諸表もきちんと読めていなかったことが恥ずかしかったから。またその際の転職活動で少し苦労をして、何かが起きた時に世の中の流れに身を任せるのではなく、自分の人生ぐらいいは選択肢をもって常に道を選ぶ余裕があるべき、と思うようになりました。将来的に海外に出たいという意識も強く、決断しました。

結果的に、会計だけでなく幅広い分野を学習することになったので、会計士としてだけでなく、様々な業種に役立てることが出来るのでは、と感じています。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：ゼロ

英語知識：TOEIC®TEST 760点程度

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

他社よりも教材のボリュームがあるところ、それでも講義では必要な所にだけフォーカスしている、と強調していたのでTACを選びました。心配性なので、もし講義だけで足りないと感じたら自分で教材を参考に出来るかと判断しました。

また、受講料が安かった点も理由の1つです。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

全科目、とても分かりやすく スムーズに受講することが出来ました。

Beckerの操作性も、Windows, Macともに全く問題なく、本番さながらの雰囲気です。いつも問題を解くことが出来ました。

科目によってはTAC問題集だけで十分なものもありましたし、勉強方法については各講義の先生方の仰ることを素直に聞くことが一番良いと思います。

特にFARの小泉先生・草野先生、REGの内田先生の授業は秀逸で、とても分かりやすい講義でした。またFARは元々会計知識がなかったので英文会計入門から受講しましたが、この入門編でしっかり基礎を学んだことが、最後まで理解につながりました。

会計知識がある方も、この入門編から入ると良いかもしれません。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信、約2年。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

とにかくTACの教えを忠実に守りました。

仕事との両立による時間の制限と自分の記憶力の弱さから、一度に複数受験することはせず、着実に1科目ずつ消化していく方法を取りました。そのかわり、一発で合格出来る自信が自分につくようテスト直前まで粘り続けました。

また、短期間で終わらせたかったので、どんなにテストの手応えがなくても、結果が出るまでは、受かったと信じて次の科目を勉強して合否を待っていたことも、今となってはとても良かったと思います。本当にテストの手応えはあてになりません。

FAR：試験範囲の広さに辟易しますが、比較的苦手だな、と思う所は何度も講義を移動中などに聞き直し、理解を深めました。なんとなく問題を解くだけだとなかなか苦手分野を克服出来なかったもので、とにかく根底の理解を深めることに注力しました。TAC問題集は5回転しました。草野先生が7回転と講義で仰っていて、それ

を達成出来ずに試験に臨んだことが不安材料でした（笑）Beckerも取り組み、苦手な分野は集中的に問題を解いて、まんべんなく得点できるように仕上げました。FARⅢからの出題も多く、自主学習だからといって侮らない方が良いです。

BEC：一番勉強時間としては短かったです。テキストも他科目に比べるとそれほどボリュームがなかったです。色んな分野から少しずつ問題が出るのでつかみどころがありませんが、テキストの理解をふかめてBeckerは2回転ほど解きました。

WritingでBalance sheetの綴りを「Balance seat」と間違えて記載してしまいましたが、合格でした（笑）余り細かいことは気にせずに、とにかく「書く」ことが大切です。

REG：個人的には試験範囲の広さのせいか、一番苦しい科目でした。杉浦先生・内田先生の仰ることは全て素直に受け入れて、TAXはとにかく講義と直対まとめ、TAC問題集に注力しました。語呂あわせもフル活用しました。Beckerはこの科目だけ一度も使いませんでした。SIM対策の講義も、かなり充実した内容でした。BLは移動時間に何度も聞き、テスト直前にAランクを徹底的に叩き込みました。テスト問題は殆どAランクからの出題で驚きました。

テスト自体の手応えは最悪でしたが、蓋を開けてみると4科目の中で最も高得点でしたので、やはり基本を押さえることが大事なのでしょう。自分が解けなかった問題は他の人も殆ど解けない、と割り切ることが重要です。

AUD：正直つかみどころがなく、Beckerの問題もなかなか正答率が最後まで上がらずに一番不安な状態でテスト当日を迎えてしまいました。英語で問題を解く難しさを一番感じた科目です。

ただ勉強する内容自体はそれほど難しくはないので、Beckerを解いて様々な問題パターンに慣れることに注力しました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

特段大きなトラブル等はありませんでしたが、なかなか最初のNTSが発行されずに苦労しました。

問い合わせると、foreign evaluation letterがFACSから届いていない、と言われ、FACSに確認すると、とっくに発行した、と言われ、若干たらい回しに合いましたが、何度かNASBAの担当者をついたら無事発行されました。

少しでも遅いな、と思ったら早めに連絡してみた方が良かったかもしれません。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

会計知識ゼロの私がかかったのですから、やれば本当に受かる資格だと思います。

試験会場で名前が呼ばれるまで粘って勉強していると、そういう所に限って出題されたりしますので、最後まで絶対に諦めないでください。

試験範囲が膨大なもので、途方に暮れることもあるでしょう。誰かに悩みを相談したい時もあると思います。私の反省から、切磋琢磨できる環境があればもっと良かったな、と常日頃から感じていました。是非そういった仲間を作って取り組むことをお勧めします。

私は通信だったこともあり孤独な勉強環境でしたが、例えば電車ですマホばかりいじっている同世代の連中を見れば見る程、勉強への意欲が湧いてきました（笑）多少うがった見方ですが、通勤時間という短い時間でも、どんどんそいつらに負けない力を付けてやるぞ、と思うようにしていました。自分をモチベートさせる手段を得ておくと、躓いた時に有効かもしれません。

資格取得も大事ですが、そのプロセスとして仕事と両立して学業に励んだことも、今となっては大きな自信となっています。是非最後まで諦めずにやり通して下さい。



諦めないことが大切です。

小田 選太郎 さん

2014年2月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：84点（2014年2月／3回目）、BEC：82点（2014年2月／7回目）

REG：81点（2013年2月／3回目）、AUD：75点（2012年8月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

営業から経理への人事異動があり、英語と会計両方の勉強をしたいと思い始めました。

ずっと英語に苦手意識があったためそれを払拭するために業務に関連する分野を学ぶのが一番いいと考えました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級、証券アナリスト

英語知識：TOEIC®TEST 400点台

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

証券アナリスト受験の際にお世話になったためです。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

授業がわかりやすかった点です。FARの草野先生とAUDの田中先生の授業が楽しかったです。草野先生の授業は、難しいことをすごくわかりやすく説明してくれました。それまで、点と点だった知識を線でつなげてくれるような授業でした。田中先生は、具体例や実務の話をつんだんに織り交ぜて話してくれたのでとても楽しかったです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通学です。勉強を開始してから全て合格するまでに約5年かかれました。当初は、短期間で合格するつもりだったのですが、結果的に合格まで長期にわたってしまいましたので、5年再受講割引制度が大変有難かったです。この制度がなかったら諦めていたとも思います。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

時間が過ぎると、知識や理解が曖昧になってしまいます。やみくもに独りで問題集を解くよりは、再受講制度を利用し、再度正確な知識をインプットするほうが良いと思います。

MC：苦手な論点を作らないようにリストを作って管理していました。各章90%を目安としてやっていたのですが、試験上、重要性の低い問題もあるので90%に固執しなくてもいいと思います。それよりも先生が講義の中で話される「落としちゃいけない論点」は必ずできるようにした方がいいと思います。

SIM：総まとめ講義演習を説いた程度です。それ以外は手をつけていません。

FAR：草野先生の言うことだけを信じました。絶対論点は落とさないようにしました。政府会計は、ベッカーに手はつけず、内田先生の直前対策のみをやりました。

BEC：最後まで苦労しました。IT、WCがいつもweakerで落ちてしまいました。

ITについてはテキスト（特にリスクの順番やITビジネスについて、）を何度も読み直し、各章をノートにまとめました。ITにおける内部統制はCGと関係していたり、サプライチェーンもMAで出てきたりと同じ言葉が違う科目で出て来ることがありますので、これらは関連付けて覚えるようにしました。また、ITパスポート等の試験の参考書も読みました。ベッカーでは複雑な問題もありますが、難しい問題は捨てました。WCについては、ずっと軽視していましたが、最後の受験のときは、試験前日・及び当日の午前中を使ってひたすら書き続けました。

REG：TAXについては、ベッカーには手をつけず、内田先生の問題集しかやっていません。ビジネスローについては、Aランク論点のみをやりました。

AUD：Audit reportの雛形を暗記し、ベッカーをときました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

学歴審査等は滞りなく、すすみしました。

最初はグアムで受験しました。韓国の団体主催のツアーに参加しましたが、皆深夜まで勉強していたことに刺激を受けました。

日本受験が始まってからは、平日に半休をもらって受験後、出社することができたのでとても快適でした。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

ベストは短期で合格することだと思いますが、仕事の都合等で長期戦になってしまう人も多いと思います。長期戦になると費用も多くかかり、科目合格の有効期限もあるため、後ろ向きの気持ちになってしまいます。大事なものは、合格後のイメージを強く持って勉強することだと思います。



USCPA License 取得のメリットは数知れないと思います！

小泉 秀樹 さん

1983年生まれ
慶應義塾大学 2006年3月卒業
勤務先：金融機関
税理士

2014年2月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：92点（2013年10月／1回目）、BEC：87点（2013年10月／1回目）
REG：84点（2013年11月／1回目）、AUD：89点（2014年2月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

はじめは日米会計士の資格を持つ上司の薦めで取得を考慮するようになりました。私自身も、これまでグローバルな会計事務所および金融機関で税務会計業務に携わってききましたが、(1)今後もグローバルに活躍したい気持ちが強かったこと、(2)日米の会計税務の違いを知ることで、さらに深い会計税務の知識が身に付くと考えたこと、(3)専門知識を英語で勉強することで、海外の関連会社とのコミュニケーションがスムーズに行くと考えたこと、(4)自分の市場価値を高めたいこと、等の理由から受験を決めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語力は、コミュニケーションには困らない程度です。会計知識は、税理士資格を保有しているため特段問題ないレベルだったと思います。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

税理士資格取得時に大変お世話になったため、TAC以外は考えていませんでした。

USCPAの資格に限らず、会計、税務の資格はTACを選んでおけば間違いないと思います。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

インプット用の教材は、日本人向けに（日本語と英語で）丁寧に作られていて、大変分かりやすかったですし、アウトプット用の教材はBeckerの問題をカバーしつつ、TACのオリジナルの問題もあり、かつ解説は日本語となっているものも多くあり、まさに合格まで最短距離で勉強ができる環境が整っているのではないかと思います。講師の方々には皆様素晴らしいのですが、中でも特に小泉先生と阿辺先生の授業が抜群に分かり易かったです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学のDVD講座です。学習期間は、講座を申し込んでからは1.5年ですが、初めの方は手つかずでしたので、実質的な学習期間は10ヶ月程度です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

講義はすべて1.3倍速で聴きました。FAR、BECおよびAUDは、基本的には講義をすべて聴いた後、TACの問題集を2回まわしました。（もちろん、簡単だと思った問題には1回転目で×を付し、2回転目も同様の方法でまわしました）。そ

の後、Beckerの問題集を同様の方法で2回まわし、本試験二週間前からAICPAリリース問題（3年分）、SIMULATION問題に手をつけ、最後にTAC、Beckerの問題集でまだ×がついていない問題を解きました。REGは範囲や問題が膨大でしたので、Beckerの問題集には手をつけておりません。TAXは内田先生の厳選問題集を同様の方法でまわし、BUSINESS LAWは杉浦先生が指定してくださったAランク論点をTACの問題集でまわせば十分だと思います。（もちろん、REGもリリース問題とSIMULATION問題は最低限つぶしましたが。）

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続は、私の場合は全てスムーズに行きましたが、取って挙げるなら受験票（6ヶ月間有効のもの）の発行が予想以上に早かったことです。1ヶ月超かかると思っていたところ1週間程度で発行していただきました。無事発行していただき安心しましたが、有効期限が発行時から半年のため前倒しとなり、少しだけ焦った記憶があります。

受験も、横浜の受験会場の方々のおかげで大変スムーズでしたが、AUDの受験日は大雪で試験開始5時間前に家をでてなんとか受験できたものの、帰宅できず、横浜のネットカフェで一夜を明かした辛い記憶があります。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

USCPAの勉強は、会計や監査、税務だけでなく、ビジネスマンにとってあった方がいいであろう様々な知識をカバーしており、グローバルで見ても大変市場価値の高い資格だと思います。また、最低限の英語のスキルも保証されると思いますし、ビジネスでの活躍のフィールドは数知れないとも思います。（実際、私の会社にも部署を問わず、ホルダーは沢山います。）

それだけに、難しい資格ではあると思いますが、取得されたら自分自身の自信にもつながりますし、周りの評価も少なからず変わると思います。

今勉強中の方やこれから合格を目指す方が、（未熟者ですが）私の体験記をご覧になって少しでも励みにしていただけましたら幸いです。頑張ってください。（偉そうに聞こえたら申し訳ありません。）



TAC と Becker だけで平均90点も可能！

呉 静 さん

1985年生まれ
2006年上海大学卒業、2009年立命館アジア太平洋大学卒業
勤務先：製造業 経理部門
日本企業で働く中国人です。

2014年2月 USCPA試験合格 (NH州)

FAR : 94点 (2013年5月/1回目)、BEC : 88点 (2013年7月/1回目)

REG : 91点 (2013年11月/1回目)、AUD : 89点 (2014年2月/1回目)

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

大学では会計の勉強をしていませんでしたが、入社後経理の部署に配属されました。知識不足を痛感して簿記を勉強し始めました。簿記2級を取得した後、上司にUSCPAを勧められました。英語と会計の知識を両方勉強でき、世界で通用するUSCPAに挑戦しようと思いました。また、日本で受験できるようになったのも学習を始めるきっかけになりました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級

英語知識：TOEIC®TEST 990点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

まず説明会に参加して教材が充実していることと、サービスの内容が分かりました。

その後、私は大学で会計の単位を取っていなかった為、USCPAの受験資格があるかどうかについて心配だったので、本学生コースを申し込む前に、無料のTAC「受験資格取得状況診断サービス」を利用しました。TACの方が親切に各州のメリットとそれぞれの要件を教えてくださいましたので、迷わずTACを選びました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

FARの草野先生が大好きでした。最初はまったく自信がありませんでしたが、草野先生の授業がとても楽しくて、まったく苦を感じませんでした。むしろいっぱい励まされて、最後までがんばると自分の気持ちを固めました。愛知県に住んでいるので、一回だけ新幹線で東京に行って、草野先生の生授業を受けに行きました。(結局はtoo shyで話かける勇気がありませんでしたが。。。)

勉強の最初はmotivationが大事だと感じました。REGの内田先生も大好きです。内田先生のUniqueな声が頭の中で響いて、本試験のときも内田先生の姿が浮かべて何問か解けました。直前対策まとめが最高の補足資料です。それがなければ自分で何十時間もかけてまとめなければならなかったと思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信です。授業を受けてから全科目合格までは21ヶ月です。

大学の会計単位が全然足りなかったため、ブラッドリー大学の単位を集めるまで約1年かかりました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと/科目別）

全体：弱みの整理と時間配分のコントロールのため、試験直前の1ヶ月間は毎日Beckerのrandom問題(30問or 60問)を解きました。全体的に弱みがないよう心掛けました。

1. FAR：一番基礎知識が多いFAR1の内容が一番時間をかけました。簡単な問題を落とすと、Bondなど計算が複雑な問題を何問正解しても不合格になるのがUSCPAの特徴だと草野先生の授業で覚えたので、難問よりは基本をマスターすることを心掛けました。

本試験では自由にメモ用紙を使えないし(A4サイズ程度のラミネートシートを使用し、書き終わったら都度取り替えなければならぬ)、普通の電卓も使えないため、勉強する時も似たような環境を作りました。1枚の紙に2本の縦の線を引き、左、中、右3つのスペースに分けて計算練習をしました。(本試験のとき、スペースのバランスを考えないでラミネートシートを使うと、気持ちもいらいらすると思うので)

2. BEC：個人的には一番楽な科目でした。Writingだけが心配だったので、試験直前2週間は毎日2つテーマを決めて時間を計って練習しました。毎日20分、2問練習するだけで本番では落ち着いて書けました。英語に自信ない方は、パターンを覚えることをお勧めします。

3. REG：TAXの部分は、内田先生の直前対策まとめを120%活用しました。

本試験直前は、テキスト抜きで、直前対策一冊だけで問題が解けるようになりました。

Business Law部分は、杉浦先生のA論点を中心に勉強しました。各章のA論点をWordで数枚のノートにまとめてから理解+暗記をしました。全部で約20枚の紙になりましたが、自分が作った物なのでまとめた途中で自然に覚えました。

理解50%+暗記50%の科目でした。

4. AUD：英語力が一番問われる問題です。自分で約50枚のまとめノートを作りました。

理解と暗記も大事ですが、AUD問題の独特の言い回しに慣れるのもポイント。

問題をたくさん解くより、1問1問に対して、「この問題は何について聞いているの？」と自問自答する習慣を作りました。FARの復習も必要です(FAR知識の過年度修正とsubsequent eventは特に出題頻度が高い)。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

申請から受験までは特に問題なく手続きを進められましたが、会計単位を揃えるのに約1かかりましたので、会計単位を持っていない方は早めに動くことをお勧めします。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

どの科目でも本試験ではまったく分からない問題が何問か連続で出てくることがあるのがUSCPA。「これはダミー問題だ」と自分に言いかけ、落ち着いて次に進むことができたので、結果は全部90点近くで合格できました。パニックにならないように、簡単な問題は絶対に落とさないこと、「ダミー問題」と「採点される問題」を見抜ける力をつけるのが大事です。TAC、BeckerとAICPAの公表問題だけで、最後まであきらめずに頑張れば合格できるのがUSCPA！みなさんも合格を目指して頑張ってください。

中高年受験生こそ一発合格の決意を持って！



T.S さん

1962年生まれ
慶應義塾大学 法学部政治学科 卒業
勤務先：外資系企業 経理部長
複数の米国及び欧州企業の日本法人で経理部門
の管理職を経験

2014年2月 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：87点（2013年10月／1回目）、BEC：79点（2013年11月／1回目）
REG：83点（2014年1月／1回目）、AUD：84点（2014年2月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

外資系企業に長く勤務し転職も経験するなか、前々から取ろうと思っていたのですが準備や手続きが面倒で逃げていました。が、ここ数年、自分のキャリアに天井感を強く感じるようになっていたところ、日本受験が可能になりやっと本気で勉強する気になりました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

米国上場企業の日本法人で経理部門の管理職だったので、英語でのビジネス経験と会計の知識はかなりありました。が、実際勉強してみると学ぶところはいっぱいありました。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

以前、他校に通ったことがあるのですが、講義や教材の質・量が不十分だけでなく事務局の対応にも不満を持ちました。そこで、TACに受講相談に行ったところ、とても丁寧に対応して頂き（最初の講義で、説明して頂いた相手が小泉先生だとわかった）、また、他校経験者割引があると知って即決しました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

他校での経験があるので断言できますが、テキストにも講義の内容にも妥協がないこと。科目ごとに多くの先生がいて飽きることがなく、何より皆さんの一生懸命さが伝わってくる講義でした。Becker教材も（ごくたまに動かなくなることを除いて）素晴らしかった。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

無遅刻無欠席で通学しました。特に最初の3ヶ月は土日通ったので9カ月で終了させました。合格までの学習期間は13ヶ月です。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

TAC問題集を毎講義後の翌週に終わらせ、半年経過してからはBeckerも1週間で何問解いて何月までに終わらせるという計画を立ててやりました。ほぼ1ヶ月に1科目ずつ受験する計画だったので、直前1ヶ月はBeckerのComprehensive Progress Testsの問題をこれも1日何問、1週間何問という計画を立ててやりました。とにかく、時間のある限り問題をこなした、という感じです。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

NTSの有効期間は6ヶ月間しかないのですが、Test Windowいっぱい目の第2月の月末（私の場合2014年2月末）まで有効になるようなタイミングで出願しようと思いました。NTS受領まで初回出願後1～2ヶ月かかる、ということだったので、2013年7月末に出願時したのですが、Receipt for your CPA Applicationには、"you will receive a Notice To Schedule (NTS) from NASBA, usually within two weeks of the application date"と記載されていて、いやな予感がしました。そして、何とその通りぴったり2週間でNTSが送られてきたので、計画より半月前倒しで受験することになり、特に4科目目のAUDは勉強時間が不足して焦りました。もちろん、人によって状況は異なるのですが、申請内容に不備がなければ手続きはWeb上でスムーズに進むようになっているのではないのでしょうか。

試験の感想としては、AUD以外は思ったより点が取れた印象です。落ちた!と思ったREGと90点は取れたと思ったAUDが1点しか変わらず、不思議でした。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

年齢によって衰えるのは記憶力だけでなく集中力の持続だと思いました。最後までやり遂げられるか、当初、自分自身でも半信半疑でしたが、自分の強み、弱みを客観的に評価しました。自分は集中力はないが細かい計画を立ててその通り実行するのは苦ではなかったので、それをやり遂げたことが勝因だと思っています。

また、経理部員を採用する側の立場で少し偉そうなことを言わせていただくと、USCPAの合格は履歴書の武器にはなりませんが、あくまで何ができるか、何をやってきたかが大事なので、合格後も努力は怠らないでください。

しっかりと学習計画を立てることが合格への近道



T.M さん

東京大学 2008年卒業
勤務先：外資系IT企業

2014年2月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：79点（2013年2月／2回目）、BEC：80点（2013年8月／3回目）

REG：76点（2013年5月／2回目）、AUD：80点（2014年2月／3回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

文学部を卒業し専攻もビジネスとは関係ない中、運良く外資系IT企業に就職でき最初は営業部に配属されたが次第に数字を扱う業務に興味を持つようになりました。そんな中グローバルで英語、会計、ファイナンスの知識を駆使して活躍できるUSCPAというものがあることを知り挑戦することにしました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級

英語知識：TOEIC®TEST 875点、英検準1級

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

最初メイン州に出願したときはまだ単位要件が甘かったこともあり独学で挑戦したのですが結果は惨敗。そのタイミングでメイン州の単位要件が引き上げられアラスカ州に出願州を変更しました。単位要件を満たせるということとBecker教材で学習できるTACが魅力的だったので大手であるTACを選択しました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

Becker教材でPCで実際のテストと同じ感覚で問題を解けるところ、30回までわからないことは質問できるなどアフターサポートがしっかりしていたため安心して勉強することができました。英語の教材で、英語に慣れることができることもよかったです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信

合格までの学習期間はTACに申し込む前を含むと1年9ヶ月（内TACに申し混んでからは1年半）

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

合格にかけた学習時間は約1,000時間で、悩まされた科目はAUDでした。各科目にかけた時間は、FAR 180時間、BEC 250時間、REG 160時間、AUD 380時間でした。

FAR

もともと日商簿記2級の知識があり、USCPAと並行して日商簿記1級も合格したため自信はありましたが、そのせいかJGAAPとUSGAAPの違いに悩まされました。テキストを読み込んで仕訳を切ることでその違いを克服でき、それは後にTBS問題を解くときに役立ちました。表面上ではなくしっかりと理解をすることが大切だと思います。政府会計、公会計は今まで経験したことがなかったのでDVDを何回も見て理解を深めました。得点源なので政府会計、公会計は捨ててはいけないと思います。

REG

連邦税法やTax Formは日本人にはなじみの薄い分野ですが、DVDを何回も見て、Becker Online演習ソフトを何回も解き理解を深めました。講義ではFormを中心に説明してくれ、かつ効率のいい暗記方法を教えてくれたので覚えるのは意外に楽でした。ビジネス法では暗記のためのミニノートを作成し論点をまとめる形で頭に叩き込みました。

BEC

原価計算等は得意分野だったので一通りBecker Online演習ソフトを解く程度にとどめ、弱かったCorporate Governance、経済学、Finance分野は重点的にテキストを読み込み理解を深めました。Written Communicationは何が問われているのかをよく考えた上で解くように心がけ、よく使われそうな表現などは覚えるようにしました。

AUD

一番手こずった科目です。途中で新しい試験内容に移ったため勉強時間もかさみました。監査自体なじみがなかったので1回DVDを見た限りでは理解できず、何回もDVDを試聴し、テキストを熟読して理解を深めました。苦手の論点はノートにまとめ後で読み返せるようにしたり、統計サンプリングの分野は別に書籍を買い根本的な理解を深めました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験までの手続が多いのもUSCPAの特徴です。私は途中で出願州の変更を余儀なくされ、それに伴い学歴審査の再送、メイン州からアラスカ州の受験履歴のTransferなど通常の手続よりも多くうまくいくかどうか不安でした。分からないことがあったら事務所に聞く、あるいはTACにサポートを求めるといことも必要です。受け身にならず積極的に動くということが求められる試験かなと思います。今になればいい思い出ですが。

また合格にはスケジュールリングが大切です。私は欲張って学習開始時に4科目一気に申し込んだのですが、仕事をしながら半年以内に4科目を受けることは至難の業でした。結果4科目中2科目しか合格せずバランスを崩してしまいました。自分の学習の完成度とスケジュールリングが合格の秘訣です。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

あきらめずにしっかりと学習すれば結果がついてくる試験だと思います。試験範囲は膨大ですが、試験当日に記憶力をピークに持っていけるような学習計画を立てれば十分太刀打ちできます。仕事をしながらキャリアアップを目指して学習される方が多いと思いますが、うまくバランスを取りながらかつメリハリをつけて学習してください！



ライフイベントと勉強の両立がカギ、TACとBeckerで一発合格できます！

A.M さん

学習院大学 2009年卒業
勤務先：外資系金融

2014年1月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：78点（2013年2月／1回目）、BEC：84点（2013年8月／1回目）

REG：79点（2014年1月／1回目）、AUD：83点（2013年5月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

社内で経理部へ異動になり、日々の業務と合わせて実務に役立つ知識を身につけたかったため。仕事で英語を使うことが多いので、会計＋英語でUSCPAに決めました。また日本の企業が今後JGAAPからIFRSへの移行していく傾向にあることも考慮しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級

英語知識：TOEIC®TEST 940点、英検1級

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

TACでUSCPAを取得した同期の勧めと、他社と比較した際も丁寧な説明でわかりやすそうだったから。基本は通信でしたが教室へ通いやすいところも魅力でした。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

丁寧な説明のテキスト、DVDと論点が凝縮された総まとめ講義のDVDとテキストなど使い分けられる教材が充実していたところ。Becker Online演習ソフトで数をこなせたところ。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信で学習しました。

学習期間は申し込してから3年、本腰をいれて勉強し始めてから合格の期間は1年です。申し込んでから本格的な学習を始めるまでに期間があいてしまったため、途中で有効期限がきれてしまい、再受講制度を利用して2013年度版のBeckerを買直ししました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

（全般）

社会人であまり勉強に時間を取ることができなかったため、3ヶ月ごとに1科目ずつ勉強して受験しました。最初の1,2ヶ月でDVDを1.5倍速から2倍速で聴き、問題集を軽くとき、余裕があればBeckerの問題集を2,3問飛ばしでときました。最後の1ヶ月でまとめDVDを聴き、苦手な論点を中心に本格的に問題をとき、同時にBecker演習ソフトでWritingやSIMをときました。科目によってDVDや問題集の量が違うので、次の受験までの3ヶ月の計画を立てました。

（FAR）

企業会計が一番業務に近かったので馴染みがある反面、量

の多さで受験までなかなか辿り着かない科目でした。覚えることと計算問題が多いので、草野先生のおもしろい授業のお陰でなんとかつめ込みました。苦手な論点はDVDを見直し、問題集、Beckerをとくことを繰り返しました。

政府会計とNPO会計は内田先生のまとめテキストがとても役に立ちました。

試験当日は時間内に終わらず、残念な気持ちと悔しさで落ち込んでいましたが、ぎりぎり合格していました。

（BEC）

IT、ECO、CGは授業と問題集、MA&FINはFAR同様に勉強を進めました。

範囲が広く初めて見る論点も出題されるとのことだったので、一番勉強量が少ない上自信のなかった科目でしたが、運良くわかりやすい問題が出ました。

（AUD）

初めはとっつきにくく感じましたが、田中先生の授業がおもしろく暗記も覚えやすかったです。自分が監査する立場になりきって問題を多くときました。一番計画通りに勉強できた科目だったと思います。

（REG）

一番てこずった科目です。TAXは暗記が特に多く、内田先生のまとめノートを毎日読み、覚え、問題をといてまた覚えるを繰り返しました。理解を深めていくと覚えやすかったです。とにかく問題をとくことで頭に叩き込みました。シミュレーション問題は早めに取り組み、暗記と合わせて進めていくと良いと思います。また、問題の種類も多いのでできるだけすべての論点のシミュレーションをといておくといいと思います。Business Lawはまとめテキストと合わせて、テキストに戻って読みながら覚えました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験時のエピソード

BEC合格後、当初はTAXを11月に受験予定でしたが異動などでバタバタしてしまい、中々勉強の時間が取れませんでした。モチベーションが下がった時は、勉強場所を変えたり、友人に話したりして気持ちを切り替えました。直前でどれだけ頑張れるかがカギだと思うので、試験前に休暇をとらせてもらうなど職場のサポートもとても助かりました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

社会人として仕事を続けながら役に立つ勉強をできるのは、とても貴重な機会だと思います。

勉強とライフイベントの両立が何より大変だったので、職場や家族とうまくコミュニケーションをとって一発合格を目指して頑張ってください。

「きっと合格できる」と思う気持ちが大切。



野中 俊 さん

勤務先：監査法人

2014年6月 USCPA試験合格（ワシントン州）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

英語を得意としていたわけではなかったことから、常に英語をしっかり学ばなければという意識は持ち続けていました。また、仕事上で米国の会計基準や監査基準に触れる機会はそれなりにあったことから、一度はしっかりと全体を学んでおく必要があると考えていました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

1991年、公認会計士登録。

2006年、BATIC（国際会計検定）のアカウンティングマネジャーレベルを取得。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

1987年に公認会計士試験（当時の二次試験）、1989年に宅建建物取引業主任者試験に合格できましたが、いずれもTACの通学講座のおかげです。

2000年頃、何となく受けてみようという別の学校から発行されている米国公認会計士の科目別解説本を買いましたが、全く試験勉強に時間を割くことはできませんでした。

最終的にはこれまでお世話になった学校がいいと2006年にTACの門を叩きました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

過去に受講した公認会計士、宅建の講座と同様ですが、これまでに出版された試験問題の傾向を踏まえての講義、教材の構成になっています。資格試験への合格という目標を最短で達成するためには、まずその対象となる試験の中身を知るといっては至極当たり前のことなのですが、なかなか一人では全体を押さえきれません。

また、幅広い試験範囲の中で、基本的なところ、他の受験者も落とさないところはまずしっかり押さえるという点は、複数の講師の先生がおっしゃっておられました（そのとおりだと思います）。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

最初に本科生コースを通信で受講しました。その後、再受講割引制度などを利用して必要な都度、科目ごとにBeckerの教材を購入したり、新試験対策講座等を通信で受講しました。

まず、米国公認会計士を受講しようと思った2006年、BATICの受験からスタートしました。TACの本科生コースに申し込んでから、大学で取得した単位では会計科目がかなり不足していたことがわかり、TACが当時提携しておられたネバダ州立大学リノ校（UNR）の試験を受けて、2007年前半に必要な単位数を得ることができました。ところが仕事を優先しなければならぬ状況が続き、実際の米国公認会計士の受験開始は2008年後半からでした。その後も合格まで随分かかってしまいました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

最初のうちテキストを読んだり、MCの問題を解きながら「まとめノート」なるものを作りました。これまで合格できた資格試験と同じやり方であり、複数の講師の先生もおっしゃっていますが、ノートを作ると細かい論点も一覧できるようになります。FARやBECの再受験の際に見返すことができた点で有効でしたが、与えられた時間が少ない中、そうしたノートを作る時間に費やすのではなく、一問でも多くMCの問題を解いたほうがもっと早く合格できたのではないかと自省しています。

REGの杉浦先生は、問題を解いたら理解が曖昧なところはテキストに戻りましょう（どこに何と書いてあったかを押さえる）と講義中に繰り返しておっしゃっておりましたが、何度も間違えたり、理解できなければ何度も同じところを見ることになり、そのうちにわ

かってきます。最後は、ノートやメモは別に作らずにテキストの空きスペースに簡単なコメントを入れるに留めました。

また、Becker Onlineが利用できるようになったこともとても大きいです。iPadを利用しましたが、Beckerのウェブサイトにアクセスできればよいので、通勤中立ったままのわずかな時間でもMCの問題を解けるようになったことをとてもありがたく感じました。

SIMの問題については、誰しも出題形式が初めて目にするものとなると少し面喰らってしまいましたが、4科目合格した際に、解けたと思ったのはFARとAUDだけで、BECとREGの出来はよくなかったと思います。実際のMCで全く新しい論点が出題されるというのは稀で、どこかで見かけた問題、論点と思い出されるものばかり（しかし正確に思い出せないことが多い）という印象です。MCで落とさない（正解を確実に出す）、ケアレスミスをしたためにも、Becker教材のMCの問題で正答率が累計で90%に達するまで続ける（講義中、内田先生がおっしゃっていました）というのはどの科目でも重要な勉強法だと思います。また、当たり前のことですが、細かい論点が多いので、忘れないうちに受験することも大切です。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

私自身の立場上、受験のタイミングが重要なミーティングやイベントと重なれば、即キャンセルせざるを得ませんでした。逆に、ひよっとしたら受験できそうだとすると試験直前でもプロメトリック（試験予約オンラインのウェブサイト）に予約を入れていました。このため受験できそうだと最終的に判断できた時には、迫る試験への不安はどこへやら、嬉しさが真っ先に込み上げてきました（それでも準備不十分では望ましい結果は決して出ません）。

日本受験が可能になった2010年以前はグアムで受験していました。ある日の就業後、夜7時過ぎの成田エクスプレスで東京駅を発ち、成田空港から深夜便に乗ってグアムに翌日の未明に到着。その後、ホテルにチェックインし、同日午後テストセンターで受験して、その翌日グアム発の早朝便で帰国し、成田空港からリムジンバスに乗り、辛うじて朝9時半の出社時刻に間に合ったといったこともありました。1日のみ欠勤しての1泊3日の受験の旅ですが、某航空会社が減便したため現在はできませんし、日本受験が可能になった今、こうした冒険をする必要もありません。

日本受験が可能になってからは、土日受験ができる場所を探しましたが、東京会場では選択できず、横浜会場（現在はなし）のほか、大阪会場でも試験を受けました。大阪への1泊2日の受験の旅となりましたが、もちろんグアムに行くよりはずっと楽です。

ワシントン州の場合、最初に合格した科目を受験した日からの残り3科目を18ヶ月以内に受験しないと最初に合格した科目が失効（Expires）してしまいますが、私の場合、度々初めのほうに受けた科目を失効させてしまいそのため受験期間が長くなりました。なお、最後に合格したREGの試験直前までTACにずっとお世話になっていたことは、ここでしっかりお伝えしなければなりません。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

ここまで記したことは「成功」というよりも「失敗」の話が多かったかもしれませんが、お読みいただいた方は、こうした「失敗」は決してなさらないと思います。

受験期間中も普通に仕事をし、生活をしていましたが、「何としても合格したい」という気持ちはずっと持ち続けたつもりです。その気持ちが最後に合格という成果に結びついたのだと考えています。

4科目合格した時は辛うじて40代最後の年だったのですが、その後、米国公認会計士協会（AICPA）のEthicsの試験には合格したものの、ワシントン州のEthicsの試験を受けるだけの勉強がまだできておらず、結果として米国公認会計士のライセンスをまだ取得できていません。もう50代になりました。もっと頭の柔らかい若いうちから始めていればもっと早くすべて合格できたかもしれません。

これから米国公認会計士を目指すという方は、過去の体験に囚われず、少ない時間で最大の効果を発揮できる「今の自分に合った方法」は何かを見つけ出して、勉強に取り組んで欲しいと思います。



Big challenge that changed my life

岸野 陽子 さん

合格した結果大手監査法人に
勤務しています

2014年5月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：86点（2014年2月／1回目）、BEC：78点（2014年5月／1回目）
REG：77点（2013年5月／1回目）、AUD：84点（2013年11月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

いつもどこか自信が持てず、悩んでいた自分を変えたいと思ったのが一番のきっかけです。何かに挑戦して達成することは、大きな自信につながると考えました。

キャリアを築いていく上で強みとなるものを身に付けたいと考えたとき、もともと英語が好きでさらに英語力を高めたいと思っていたこと、また簿記の2級を以前短期間で取得できたこともあり、USCPAが目指すべき目標としてぴったりなのではないかと考えました。

何かをできると証明することは難しいですが、試験に合格していることは、客観的な事実として伝えることができるのも魅力だと感じました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語力はTOEIC880点、会計知識は簿記2級でした。

実務経験はありませんでしたが、転職して経理業務を始めると同時にUSCPAの学習を開始したので、実務との相乗効果があったように思います。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

一番の理由は学習できる範囲の広さです。

講義数も教材数もボリュームがあり、たくさんの範囲をカバーしているということです。

なんとなく選んだ、というわけではなく、自分にとっては大きな投資になるので、他校にも足を運び、慎重に検討をしました。テキストもしっかり比較しました。

社会人なので、要点がコンパクトにまとまった教材のほうがよいのではと思ったこともありましたが、最終的に、学習できる量は多いほうがよく、そこから自身で取舍選択をしようということでもTACを選びました。

コンパクトにまとまっているということは、そこから与えられるすべてをほぼ完璧にとりこぼしなく習得しないといけないということになります。

ですが、多くの範囲を網羅的に学習していれば、そこに多少のとりこぼしがあったとしても致命傷にはなりません。

多くの情報に触れることができたことはとてもよかったと感じています。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師の方、教材がとてもよかったです。

私はもともと市販の教材で独学することが好きでした。大学受験も通常の授業外では自己学習を中心にしており、簿記も独学でした。

ですが、USCPAは簡単な資格試験ではなく、合格までには厳しい道のりがあります。

そんな中、講師の方の講義は本当に力強いサポートになりました。講義内容はもちろん、ちょっとした雑談の部分も一人での受験生活の中では、すごく癒される瞬間がありました。ただテキストを読んで、問題を解くというだけでは途中で嫌になってしまったと

思いますが、勉強を続けられたのは、講師の先生方の工夫された面白い講義のおかげだと思います。

また、教材もとてもよかったです。

まずは、テキストで1度目の知識のインプットをざっとしていき、問題集を解きながら定着をはかり、試験直前に直前用のまとめテキストで全体の復習をします。

範囲が広いのですが、直前用のテキストで一通りの復習ができ、がんばれば1週末あればこなせてしまうので、直前期の復習が本当にしやすかったです。

また、先生がオリジナルで作って配布してくださったレジュメも、コンパクトに内容をまとめていただけて、とても役立ちました。

本当は自分自身でまとめノートが作れたら一番いいのですが、時間がかかってしまうので充実した教材は本当にうれしかったです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学できるときはしていました。というのも、学習するペースを作りたかったからです。

最初は週末の丸一日を学校で過ごすというのはつらいものがありましたが、週末は勉強、というスタイルが作れたことがよかったです。学校にいけば同じように頑張っている人がいるのだと思え、やる気が出ました。

可能な限り通学して一通りのインプットをしつつ、聞き逃してしまったりと、復習を含めてDVDを見て知識の定着と理解を深められたので、DVD通信という形式は本当によかったと思います。

学習期間は2年くらいです。（うち1年はさっとインプットのみ、1年は1科目ずつの受験期間でした）

1年で合格できる と思ってはじめていたので、そこから考えると時間がかかってしまいました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

BECKERを何回転もせず、テキストと問題集を丁寧にこなす。これが合格の秘訣だと思います。基礎がしっかり身につけていけば、おのずと問題は解けるので、極端なことをいえば、テキストの内容が頭に入っていれば問題演習はしなくても試験に臨むことはできると思うのです。

テキストと問題集に含まれている問題は本試験と比較して難易度も高めで、良質なものが厳選されています。なので、それを解き進めながら理解を深めることで知識の定着をしていくことができます。

BECKERはPCにインストールをして、本試験のシミュレーションという形で使用すれば十分ではないかと思っています。

紙面上だけでやっているとは本番にやりにくさを感じてしまうかもしれないので、形式に慣れておくことは大事です。

学習の流れとしては、あくまでも私個人のことにはなりますが、最初はなんとなく勉強のペースを作りながら1回目のインプットをする。

次にDVDを倍速でどんどん見ながら知識の定着をはかる。そして受験に向けては直前の1か月、特に土日が勝負で、各土日に何をしようかと考えて集中していました。

だいたい3週間前くらいの土日で1日は直前まとめのテキストを開

いて音声聞いていました。そうすることで、全体の振り返りを一通りできたという安心感が得られました。

<FAR>

学習開始当初、本当に難しく感じ、また範囲も広いので、本当に合格できるんだろうかと思いました。簡単に理解できず、自分はとも頭が悪いのかもしれないと不安になったりもしました。

でも難しいと思いながらも一通りの勉強をしつつ、復習で前に習ったところの問題を解いてみたら、内容が理解できていて、なんだ、こんな簡単なことだったのか、と思えたことがありました。それから、初見では難しく感じてしまうようなことも、きっと後になればわかるだろう と思って勉強できるようになりました。

FARの問題はぱっと見て答えがわかるというよりは、特に最初は時間をかけて解答するようなものが多かったので問題数をこなすのではなく、丁寧に理解しながら解くということを心がけました。

小泉先生は質問にいつも親身に対応してくださったので、疑問が解消できてよかったです。わからないところはそのままにせず、質問をして納得することで理解が深まります。

試験直前はやはり範囲が広いのでこなしかけていない不安感がすごくありました。

でもそんなときに安心感を与えてくれたのが、NPAです。

これがなんと3割程度も占めるということで、最後の1か月に何をやったらいいかと聞かれたら真っ先にNPAとお伝えしたいと思います。

内田先生の講義はとても印象的でわかりやすく、気づけばFARの中で公会計が得意分野になっていました。

かなり短期間でこの内容はほぼ完璧にすることも可能なので、ここをマスターして得点源にも、時間短縮にも役立ててほしいと思います。

<REG>

最初に合格できた科目です。この科目の合格がなかったら、USCPAの勉強自体やめてしまっていたかもしれません。

TAXはアメリカに住んでいたこともないのでなじみのない内容で最初とはとつきにくさを感じたのですが、内田先生のカリスマ的な講義のおかげで、気づけば問題が解けるようになっていたというかんじです。本当に見事に計算しつくされたカリキュラムと教材で、内田先生を信じて学習すれば、合格はすぐそこだと思います。

Business Lawは法学部出身の私には、とてもスムーズに理解できる内容でUSCPAの学習を始めて一番ほっとした部分でした。

講義を聴きながら問題を解いて、直前期は音声聴いて復習したくらいでしたが、それに対応できました。

<AUD>

文系で計算科目があまり得意ではない自分にとってはこの科目もとてもスムーズに取り組めるものでした。テキストと配布していただくレジュメを使用して、学習を行いました。

暗記する内容が多いので、そういったときにレジュメがとても役に立ちました。

学習を進めている際、得意科目だと感じていたので、最初に受験をしました。自宅の問題演習をしているときはすらすらと問題が解けていたので、自信を持って試験に臨みましたが、初めての受験であったため慎重になりすぎて解答に時間をかけすぎてしまいました。

その結果、時間が足りなくなってしまいました。73点で不合格となってしまい、とても悔しい思いをするとともに、時間配分の大切さを学びました。

その後試験内容が割と大きく変わって、その対応が大変でしたが、変更部分の情報を提供していただけたので助かりました。AUDは会計士の業務にもっとも直結する内容なので、2回受験して理解を深められたのはよかったと思います。

<BEC>

最後に受験した科目です。

内容としては、そんなに難しい というものではなく、

範囲も広くはないので受験対策はとてもしやすい科目です。

ただ、試験の内容の変化もあり、日本人には難しい科目というこ

とでとても不安でした。

ですが、テキストをきちんとこなしていれば、確実に合格することができる科目です。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

NTSを取得するまでが手続き上はもっとも大変でした。学歴審査の結果を待っているとき、単位がぎりぎりだったので、減数されてしまうのではないかとひやひやしていました。

大学での単位の総合取得数が多いと、減数されるという話があったことがあり、140単位以上取得していたので、1単位の価値が2/3くらいになってしまったらどうしようと不安な気持ちでした。ですが、結果としては、問題なく単位が認定されていました。

また、テストセンターの予約手続きにも少し戸惑ったことがあります。NTSの期限内で受ける時期を決めていたにもかかわらず、テストセンターの会場変更により受けられない日程ができてしまいました。(茅場町⇒御茶ノ水への変更)

余裕をもって試験勉強をするつもりが、前倒して受験しなくてはいけなくなってしまいました。

ですが、受験日が早くても遅くてもやはりそこにむけて試験対策をしていくので、結果的に早く試験を終わらせることができよかったです。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

受験勉強は長期間にわたるため、つらいと感じるときや、やめてしまおうかと思うことが何度かあるかと思います。特に社会人の方は、仕事以外の余暇の時間を勉強に充てることになり、仕事で疲れている上、休日に遊ぶこともできない日々が続くと、ストレスも溜まるのではないかと思います。そういったときには思い切って遊んだり、少しお休みしたり、リフレッシュすることが大事だと思います。ですが、決して途中であきらめたりせず、挫けそうなときは勉強を始めた時の気持ちを思い出していただきたいなと思います。そして、強い気持ちを持って取り組んでほしいと思います。

受験は自分自身との戦いであり、合格したときにはきっと大きな自信になり、新しい自分に会えると思います。USCPA試験に合格したことで、私の人生は大きく変わりました！

合格したときの自分をイメージして、学習を楽しんでいただけたらと思います。

皆様の合格を心からお祈りしております。



Do or do not. There is no try.

T.Y さん

1970年生まれ

勤務先：日系メーカー

2014年7月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：80点（2013年8月／1回目）、BEC：82点（2013年10月／1回目）

REG：85点（2014年4月／2回目）、AUD：76点（2014年7月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

グローバル日本企業（製造業）の海外事業管理部門にて損益管理業務（FP&A）を担当した後、欧州の販売統括子会社でコントローラーを務めるなど、「グローバル」と「会計」がキーワードとなるキャリアパスを歩んでいく中で、経験を肉付けするためのバックボーンとなるような系統立った知識を持つことの重要性を感じていた。

さらに、その基盤知識が国際的に通用することの客観的証明も得たいと考えるようになった。国際ビジネスの世界では、自分が何者であるのかを確立し、説得力のある背景と共に相手に伝えられれば、ビジネスが有利に展開するケースがあると感じていたからである。

自分のキャリア志向（ありたい姿）の一貫したテーマは、「International」であり「Professional」であること。

USCPA資格取得は、このテーマを体現するために非常に有効なツールであると同時に、自分のコンピテンシーを国際的に証明する有用なエビデンスになると考えた。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

10年前にTOEIC885点、英検準1級。その後、海外駐在経験もあり、英語での業務遂行に全く支障がないレベル。

会計知識は上述の実務経験レベル。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

Web siteを拝見し、充実した授業カリキュラムと手厚い受験サポートが期待できると思った。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

期待通り、隙のないオペレーションと信頼の置けるサポートを提供頂けた。

それに加え、熱意あふれる、ユニークで上質な講義を受けることが出来たことは、非常に感慨深い。

FARの草野先生のパワフルで説得力のある講義には引き込まれた。常に会計の本質を意識させる非常に質の高い講義だった。

小泉先生のソフトで丁寧な解説も忘れがたい。

阿辺先生によるMA&FINの講義では、多岐にわたる論点が本試験対策に直結する形で非常に効率的に絞り込まれていた。

TAXと公会計の内田先生による非常にエネルギーが溢れる講義は今でも耳に残っている。

BLの杉浦先生とAUDの田中先生の講義も事例問題を織り交ぜながら非常に分かりやすいものだった。

これから受験を考える方々へも、TAC wayを信じて進めば合格というゴールにたどり着けると、自信を持って推奨できる。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信講座を受講。合格までは1年10ヶ月。

●受験スケジュール

①第1期（7ヶ月）：海外赴任中だったこともあり、FARとBECを順次一通り学習。（FAR5ヶ月（下記学習基本フロー③の1回目完了ま

で）+BEC2ヶ月（学習基本フロー②完了まで）

②第2期（5.5ヶ月）：帰国後、TACの支援プログラムで追加単位を取得、取得完了と同時に受験し、FARとBECの本試験を順次受験。

本期間中はFARとBECの試験対策に注力。（FAR3ヶ月+BEC2.5ヶ月）

③第3期（5.5ヶ月）：2科目目のBEC受験直後から、REGの学習を開始、4か月後に本試験受験するも不合格となったため、その1か月後に再受験。

④第4期（4ヶ月）：REG2回目の受験直後から、AUDの学習を開始、本試験受験。

一般的に本スケジュールのようなケースでは先に合格した科目が失効するリスクがあると言われるが、一科目ずつ集中学習できるメリットを重視した。

最大のメリットは、まず前半2科目の合格を勝ち得たことで自分なりの試験対策方法を確立でき、このまま突き進めば完遂できるという確信を持てたこと。

後半科目に臨むにあたり、新たな自信と共にリフレッシュされ、高いモチベーションを維持できた。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

●学習の基本フロー

①講義受講

②TAC問題集を1～2周（1周目は講義の進度に合わせて。理解が浅いと思ったら適宜2周目を。）

③Becker問題集を2周（1周目は奇数番の問題のみ。2周目は偶数番の問題のみ。）

④総まとめ&SIM対策講義受講、BeckerのSIM問題をPC上で2周。

⑤Becker問題集3～4周目（前周までに間違えた問題のみ。）

⑥直前期にはBecker CDのMCがランダムに出題されるComprehensive progress testを「本試験の1 テストレットの問題数を1ラウンド」として「1.5分/問の設定時間」の条件下で毎日1ラウンド以上、累計15ラウンド以上。模擬試験のFinal examを2回。直近のAICPAリリース問題。

●学習のポイント

とにかく試験範囲が広く、非常にボリュームが多い。それに対してどのように対応すれば合格レベルまで問題解答力を引き上げられるか？

そのキモは、「全ての重要論点を網羅し、問題解答力に直結した形で、短時間にレビューできる仕組みを確立すること」だったと思う。

そのツールとなったのが、上記学習フロー③④⑤の段階で作った自分なりの「まとめノート」（公会計は除く）だった。

間違えた問題を中心に自分なりの重要論点整理&解法ポイントをExcelに列記していくと、それが自分なりのまとめノートになった。

まとめノートをレビューしてから問題演習をするようにすると、記憶定着に役立つと共に、苦手な問題＝直前期にレビューすべき点があぶり出されると感じた。

そういった点の解法ポイントをまとめノートにフィードバックすることにより、より充実したノートとなり、問題解答力が高まることに繋がった。

頻りにまとめノートをレビューすることで、そのノートによって記憶をリコールすること自体にも慣れていき、最終的には非常にスピーディーに全体をレビューできるようになった。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

●出願手続

追加単位取得から最初の本試験に至るまでのスケジュールングについてTAC事務局の方から適切な助言を頂いたお陰で、計画的に手続を進めることができ、最短のリードタイムで本試験を受験することができた。

手続自体については、TAC受講生サイトにあるサポート資料(マニュアル)が充実しており、これらを利用することで全く問題なかった。

●FAR

MCについては、Becker progress testsで7割以上の正答率をコンスタントにキープできるようになれば本試験合格レベルと思われる。

公会計については、内田先生の直前対策まとめと厳選問題集が秀逸なので、それらをフル活用するだけで試験対策は十分。

4時間の本試験時間は全体の問題量から見ると非常にタイトであり、タイムマネジメントが重要となる。

medium levelの1stテストレットを順調に解き終わると、2ndテストレット以降は明らかに難易度が上がり、その分時間もかかりがちになることに要注意。

MCを終えて残り90分でTBSに取り掛かるといふ想定内の展開となり一安心したものの、TBSは予想外に時間のかかる問題ばかりで、後回しにした為替関連の1問が白紙解答となった。

すべての問題に取り組み、着実に部分点を狙っていくべき。

●BEC

MA&FINについては阿辺先生のレジュメが非常に的を射ており、それをベースに作成したまとめノートによって計算問題はほぼ完璧に解答できたと思う。

ECO、CGについては講義で言われた重要論点を押さえておけば十分対応可能。

ITについてのみ、見知らぬ論点が多々出題されたような気がする。

FAR同様、Becker progress testsで7割以上の正答率をコンスタントにキープできれば、MCについては合格レベルに達していると思われる。

MCのタイムマネジメントの面ではFARより余裕があり、WCに1時間を割ける理想的な形になった。

WCでは論じにくいテーマだった1題を捨て、比較的書きやすそうな2題に絞り、ロジカルな構成を意識して記述した。

●REG

自作のまとめノートがFARの2倍のボリュームとなり、暗記に最も苦労した科目である。

初回受験は、BLとTBSがWeaker判定で不合格となった。

BLは準備時間の都合上、杉浦先生のAランク論点をざっと暗記したのみで問題演習を全くせずに臨んだことが敗因。

TAXについては、内田先生の「直前対策まとめ」とBeckerのエッセンスが効率的に凝縮されていたTACの厳選問題集をやり込むだけでMCでComparativeまたはStronger判定を取れたが、細かい論点が問われるTBSで、最新の出題傾向(Stock optionやat-riskrule等)に対する準備不足が敗因となった。

1か月後の再チャレンジにあたり、BLについてはA論点の問題演習(TAC問題集とBecker問題集をそれぞれ2周)を、TAXについては最新のリリース問題と受講生サイトにアップされている最新出題傾向に対応する補足資料・演習に取り組んだ。

本試験では出題の運不運もあると思うが、非常に細かい論点を問われる傾向があるので、TAXの直前まとめとBLのA論点をほぼ完璧にマスターしておく準備が必要。

●AUD

4科目中最も難易度が低いと感じた。学習内容は理解しやすく、REG程、暗記に苦労することもなかった。

講義での要点をノートにまとめることで理解を整理し、Beckerの問題演習で理解を定着させた。

本試験前に受けたBecker Final Testでは、他の科目では一般的に合格の目安と言われる60%~70%の正答率だったのに対し、AUDは

2回とも77%という出来栄だった。

本試験では、試験時間のマネジメントはFARに比べると格段に余裕があり、TBSにじっくり2時間近く費やすことができた。

TBSもMCの延長であり、Beckerで演習していれば、なんらサプライズはなかった。

FARの知識も要する総合的な問題が出題される傾向もあるが、最終試験であることを実感でき、むしろ楽しめた。

但し、試験終了後、4科目中で最も良い手応えを感じていたにも関わらず、リリースされた得点が完全に反比例した結果だったことを鑑みるに、悔りは禁物。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

FARを受講し終え、BECの学習に入った頃、今、登っている山は高く、決して平坦ではないということを改めて実感した。

短期合格にはこだわらず、愚直に一科目ずつ潰していく方針をとったが、それでも合格にたどり着けるのか、不安がない訳ではなかった。

とにかく、やるべきことをやり続けるしかない。

立ち止まってしまっただけではもう何も変わらないが、歩き続けている以上は必ず前進している。

半年以上歩いても、まだ頂上は見えなかった。

それでも歩き続けていると、いつのまにか雲の上の頂上に届いていた。FARの本試験のわずか1週間前だった。

FARの合格を知った時、雲が晴れたかのように、残り3科目の頂上への道のりもはっきりと見ることができた。

あとはただ、その道を歩き続けるのみだった。

最後に、TACの講師およびスタッフの方々、そしてサポートしてくれた家族に心から感謝申し上げたい。